

# 山武市災害廃棄物処理計画

山武市

令和4年3月

## 目 次

第1章 総則	1
第1節 計画策定の背景及び目的	1
第2節 計画の位置付け	3
第3節 計画の対象	4
第4節 各主体の役割	14
第5節 処理目標期間の設定	16
第6節 災害廃棄物処理の基本方針	16
第7節 発災後における災害廃棄物処理実行計画の策定	17
第8節 災害時における廃棄物対応の流れ	17
第9節 災害時に発生する廃棄物の処理の流れ	20
第10節 災害廃棄物処理事業の全体像	23
第2章 組織体制・情報共有	25
第1節 組織体制の確立	25
第2節 情報収集・連絡	27
第3節 関係主体との協力・連携	28
第4節 各種協定	29
第5節 受援体制の構築	31
第3章 一般廃棄物処理施設の被害状況の確認・報告と復旧	34
第4章 生活ごみ・避難所ごみの処理	36
第1節 生活ごみ・避難所ごみの発生	36
第2節 生活ごみ・避難所ごみの収集運搬・処理	36
第5章 仮設トイレ等・し尿の処理	39
第1節 し尿等の発生	39
第2節 仮設トイレ等の設置	40
第3節 し尿等の収集運搬・処理	41
第6章 災害廃棄物の処理	43
第1節 被災者や災害ボランティアへの周知・広報	43
第2節 災害廃棄物等の発生量の推計	45
第3節 片付けごみの回収	47
第4節 仮置場	49
第5節 処理・処分	59
第6節 適正処理が困難な廃棄物等への対応	66

第7節 損壊家屋等の撤去等	70
第8節 処理業務の進捗管理	72
第7章 教育訓練	73
第1節 職員への教育訓練	73
第2節 経験の継承	73
第8章 災害廃棄物対策の推進・計画の進捗管理	74

## 第1章 総則

### 第1節 計画策定の背景及び目的

山武市（以下「本市」という。）は、日本有数の砂浜海岸である九十九里浜のほぼ中央で、約8kmにわたって太平洋に面し、その後背地としての広大な沖積平野及び標高40から50メートルの低位台地からなる丘陵地帯で構成されている。総面積は146.77km<sup>2</sup>である。農業が盛んである一方、松尾工業団地などの工業地域も有している。（図表1-1及び図表1-2）

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、膨大な災害廃棄物の発生に加え、津波による処理の困難性が加わり、廃棄物の処理や生活基盤の再建に多大な影響を及ぼした。令和元年度の台風災害では、家屋の損壊や浸水被害が市内の広範囲に及び大量の災害廃棄物が発生した。また、近年、自然災害が多発・激甚化しており、全国各地で大規模地震や集中豪雨により膨大な災害廃棄物が発生している状況であり、本市においても広い地域が強い揺れに襲われることや、浸水することが予測されている。

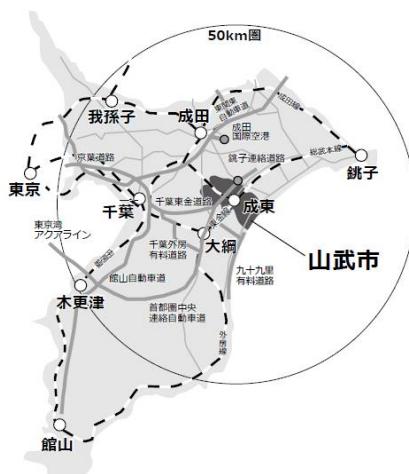
このような災害で発生する災害廃棄物は、種々の廃棄物が混合した処理しにくい性状のものが一時に大量に発生すること、人の健康又は生活環境に係る被害を生じるおそれのある重大な被害を生じさせるものを含むおそれがあること、仮置場における火災発生のおそれが大きいこと等とともに、感染症発生等の二次被害を防止する必要もある。生活環境の保全及び公衆衛生上の支障を防止し、災害廃棄物を適正かつ円滑・迅速に処理なければならない。

千葉県においても、大量の災害廃棄物を適切に処理することを目的として「千葉県災害廃棄物処理計画」を平成30年3月に策定し、災害廃棄物対策に係る取組を推進している。

以上のことから本市では、復旧・復興の妨げとなる災害廃棄物を適正かつ円滑・迅速に処理することを目的として、「山武市災害廃棄物処理計画」（以下「本計画」という。）を策定した。

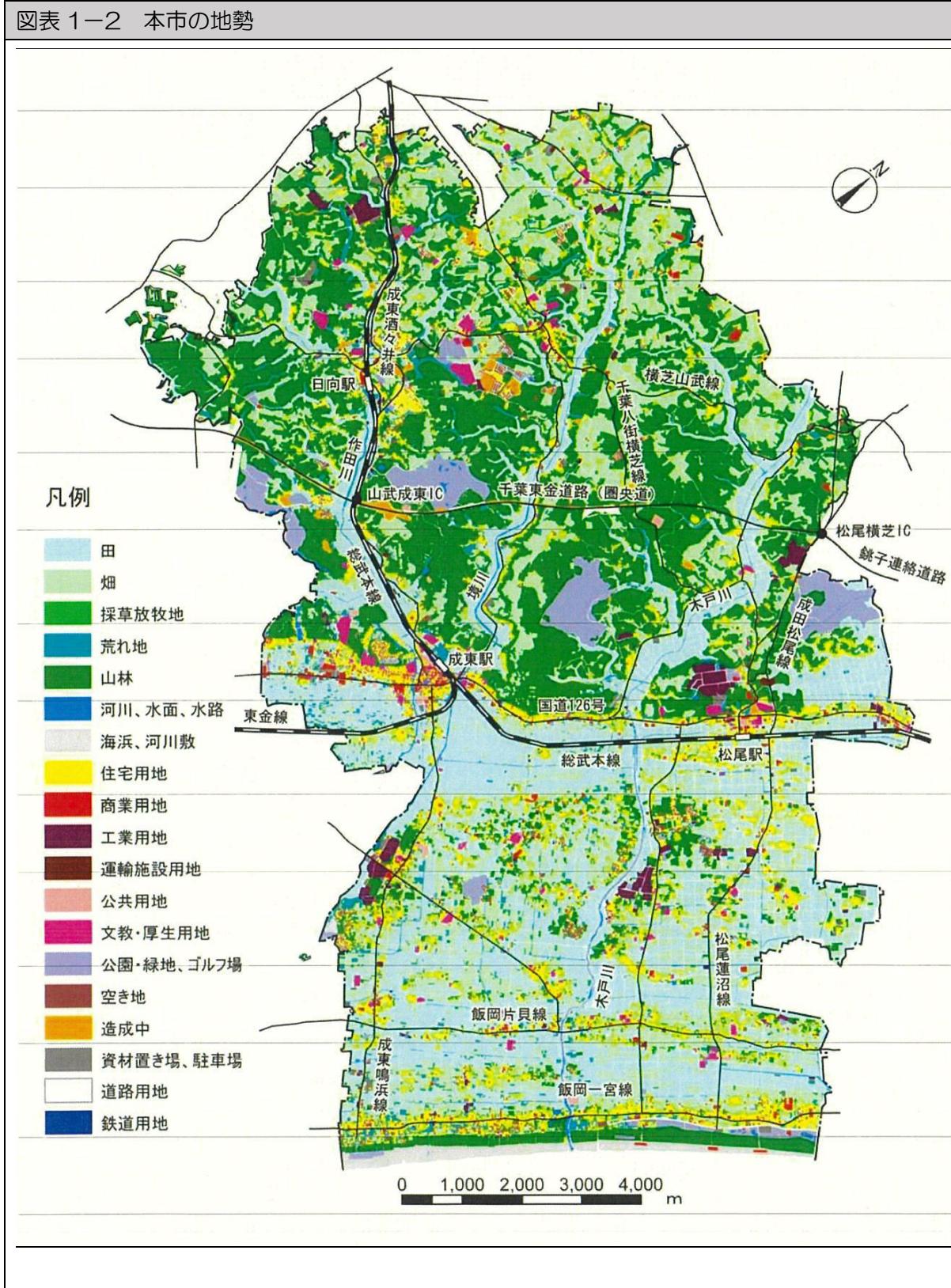
今後は、本計画をもとに災害廃棄物処理に係る関係主体との情報共有と教育・訓練を重ね、災害廃棄物処理の対応能力の向上を図る。

図表1-1 本市の位置



出典：「第二次山武市総合計画」（平成31年3月、山武市）

図表 1-2 本市の地勢



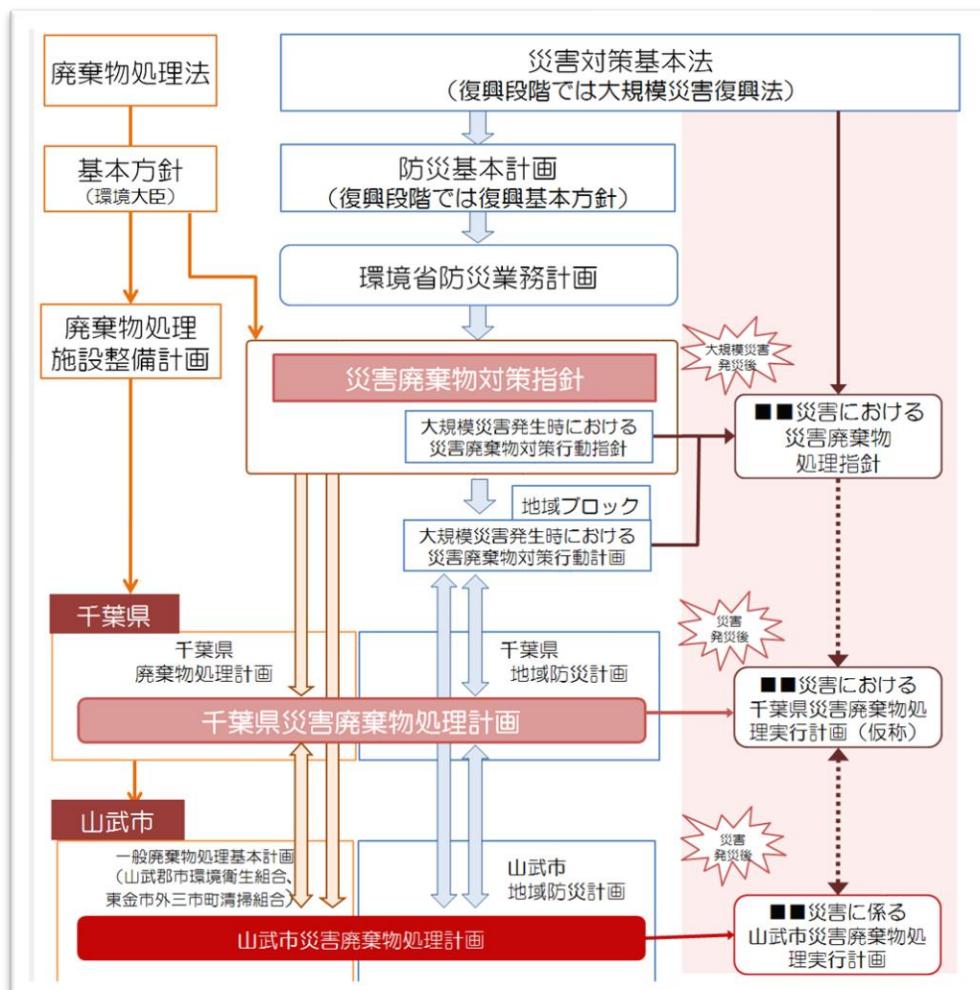
## 第2節 計画の位置付け

本計画の位置付けは、図表1-3に示すとおりである。

環境省では、廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び災害対策基本法の一部改正（平成27年7月17日公布）、廃棄物処理法の基本方針への災害廃棄物対策事項の追加等の制度的な対応を行い、さらに、東日本大震災等の近年発生した災害で得られた様々な経験や知見を踏まえ、平成30年3月には平成26年3月に策定した災害廃棄物対策指針を改定する等、地方公共団体における災害対応力強化のための取組を進めている。

本計画は「災害廃棄物対策指針」（平成30年3月、環境省）に基づき、「千葉県災害廃棄物処理計画」（平成30年3月、千葉県）、「山武郡市環境衛生組合一般廃棄物処理基本計画」（令和2年3月、山武郡市環境衛生組合）、「東金市外三市町清掃組合一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」（平成30年3月、東金市外三市町清掃組合）、「山武市地域防災計画」（平成26年9月、山武市）等の関連計画と整合を図りつつ、災害廃棄物等の処理に関する基本的な考え方や処理方法等を示すものである。

図表1-3 本計画の位置付け



### 第3節 計画の対象

#### 1 対象とする災害

本計画では、地震災害、風水害その他自然災害を対象とする。地震災害については地震動により直接に生ずる被害及びこれに伴い発生する津波、火災・爆発その他異常な現象により生ずる被害を対象とする。風水害については、竜巻等の風による被害の他、大雨、台風、雷雨等による多量の降雨により生ずる洪水、浸水、冠水、土石流、山崩れ、崖崩れ、大規模事故等の被害を対象とする。

#### 2 対象とする廃棄物

災害時には、通常生活で家庭から排出される生活ごみ及び事業活動に伴って排出される廃棄物の処理に加えて、避難所ごみや仮設トイレ等のし尿、災害廃棄物（片付けごみを含む。）の処理が必要となる。本計画で対象とする廃棄物及びその性状は図表1-4～図表1-7に示すとおりである。

ただし、事業系廃棄物は、廃棄物処理法第22条に基づく国庫補助の対象となった事業者の事業場で災害に伴い発生したもの除く、原則、事業者が処理を行うものとする。

図表1-4 本計画で対象とする廃棄物

災害時に発生する 廃棄物の種類	概要	本計画 の対象
一般 廃棄物	被災施設の仮設トイレからのし尿	○
	通常家庭のし尿	
	被災した住民の排出する生活ごみ	○
	通常生活で排出される生活ごみ	
	避難所ごみ	○
	避難施設で排出される生活ごみ	
	道路啓開や救助捜索活動に伴い生じる廃棄物	○
	損壊家屋等から排出される家財道具（片付けごみ）	○
	損壊家屋等の撤去等で発生する廃棄物	○
	廃棄物の処理及び清掃に関する法律（昭和45年法律第137号）第22条に基づく国庫補助の対象となった事業者の事業場で災害に伴い発生した廃棄物	○
事業系 一般廃棄物	その他、災害に起因する廃棄物	○
産業廃棄物	事業活動に伴う廃棄物（産業廃棄物を除く。）	
	廃棄物処理法第2条第4項に定める事業活動に伴って生じた廃棄物	

※生活ごみ、避難所ごみ及びし尿（仮設トイレ等からの汲み取りし尿、災害に伴って便槽に流入した汚水は除く。）は災害等廃棄物処理事業費補助金の対象外である。

図表1-5 被災者や避難者の生活に伴い発生する廃棄物

名称	特徴等	写真	
し尿	発災後に設置した仮設トイレ等からの汲み取りし尿が発生する。		
生活ごみ	住民の生活に伴い発生するごみで被災の程度が小さかった地域からも普段どおりに発生する。		
避難所ごみ	開設した避難所から発生するごみで、支援物資の消費により発生するため、容器包装に係るものや衣類等が多く含まれる。		

出典：「災害廃棄物対策の基礎～過去の教訓に学ぶ～添付資料 災害廃棄物の種類」（2016年3月、環境省）

「災害廃棄物対策フォトチャンネル」（環境省）

「災害廃棄物対策指針（改訂版）」（平成30年3月、環境省）

図表1-6(1) 災害廃棄物の種類

名称	特徴等	写真	
可燃物/可燃系混合物	繊維類、紙、木くず、プラスチック等が混在した可燃系の廃棄物。可燃物の腐敗・発酵が進むと内部の温度が上昇し火災発生のおそれがある。		
木くず	柱・梁・壁材であり、リサイクル先に搬出するためには、釘・金具等の除去が必要。火災防止措置を検討する必要がある。発酵による自然発火のおそれあり。		
畳・布団	被災家屋から搬出される畳・布団であり、被害を受け、使用できなくなったもの。破碎機で処理するのに時間要する。腐敗が進行すると悪臭を発する。火災防止措置を検討する必要がある。		
不燃物/不燃系混合物	分別することができない細かなコンクリートや木くず、プラスチック、ガラス、土砂（土砂崩れにより崩壊した土砂等）、屋根瓦などが混在し、概ね不燃系の廃棄物。		
コンクリートくず等	コンクリート片やコンクリートブロック、アスファルトくずなど。リサイクル先に搬出するためには、可燃物・鉄筋類の除去・破碎等が必要。		
金属くず	鉄骨や鉄筋、アルミ材など。スチール家具等が含まれる。		

※上記は選別後の分類であり、災害時には上記のものが混合状態で発生する場合が多い。

出典：「災害廃棄物対策の基礎～過去の教訓に学ぶ～添付資料 災害廃棄物の種類」（2016年3月、環境省）

「災害廃棄物対策フォトチャンネル」（環境省）

「災害廃棄物対策指針（改訂版）」（平成30年3月、環境省）

図表1-6(2) 災害廃棄物の種類

名称	特徴等	写真
廃家電等 (家電4品目や小型家電等)	被災家屋から排出される家電4品目(テレビ、洗濯機・衣類乾燥機、エアコン、冷蔵庫・冷凍庫)や小型家電等で、災害により被害を受け使用できなくなったもの。	 
腐敗性廃棄物	被災冷蔵庫等から排出される水産物、食品、水産加工場や飼肥料工場等から発生する原料及び製品など。生活ごみの中には、通常生活で排出されるごみが混在しており、災害廃棄物との区別が難しい。	 
有害廃棄物 /危険物	石綿含有廃棄物、P C B、感染性廃棄物、化学物質、フロン類・C C A(クロム銅砒素系木材保存剤使用廃棄物)・テトラクロロエチレン等の有害物質、医薬品類、農薬類の有害廃棄物。太陽光パネルや蓄電池、消火器、ボンベ類などの危険物等。	 
廃自動車等	自然災害により被害を受け使用できなくなった自動車、自動二輪車、原動機付自転車。	
その他、適正処理が困難な廃棄物	ピアノ、マットレス等の地方公共団体の施設では処理が困難なもの(レントゲンや非破壊検査用の放射線源を含む)、漁網、石膏ボード、塩ビ管、廃船舶(災害により被害を受け使用できなくなった船舶)など。	 

※上記は選別後の分類であり、災害時には上記のものが混合状態で発生する場合が多い。

出典:「災害廃棄物対策の基礎～過去の教訓に学ぶ～添付資料 災害廃棄物の種類」(2016年3月、環境省)

「災害廃棄物対策フォトチャンネル」(環境省)

「災害廃棄物対策指針(改訂版)」(平成30年3月、環境省)

図表1-7(1) 災害廃棄物の性状

種類	廃棄物の性状	写真	
地震	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 片付けごみや損壊した家屋の撤去(必要に応じて解体)に伴う廃棄物が主となる。</li> <li>○ 比較的に性状がきれいな廃棄物が排出される。</li> <li>○ 住民に対する広報や分別指導によって排出をコントロールできれば、比較的分別された状態で排出される。</li> </ul>	<p>片付けごみ</p> 	<p>損壊家屋</p> 
津波	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ さまざまな種類の廃棄物がミンチ状に混ざった混合廃棄物が多く発生し、泥・ヘドロ状、シルト分を含む津波堆積物も混合している。</li> <li>○ 海水の影響により、含水率が高く、塩分を含む。</li> <li>○ 変形した自動車や家電等が排出される。</li> </ul>	<p>混合廃棄物</p> 	<p>混合廃棄物</p> 
水害	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 含水率が高く、土砂分を含む廃棄物が排出される。</li> <li>○ コントロールできれば、比較的分別された状態で排出される。</li> <li>○ 水分を含んだ畳、動かなくなってしまった家電や自動車等が排出される。</li> </ul>	<p>水分を多く含む畳</p> 	<p>泥で汚れた家電類</p> 

出典：「災害廃棄物対策フォトチャンネル」（環境省）

「震災伝承館」（東北地方整備局ホームページ）

「つくば市で発生した竜巻による災害廃棄物とその処理」（(独)国立環境研究所）

「平成12年（2000年）三宅島噴火災害の記録」（平成20年2月、東京都三宅村）をもとに作成

「糸魚川市駅北大火で発生した災害廃棄物処理に係る現地視察レポート」（国立環境研究所）

図表1-7(2) 災害廃棄物の性状

種類	廃棄物の性状	写真	
土砂災害	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 含水率が高く、土砂分を含む廃棄物が排出される。</li> <li>○ 洪水によりなぎ倒された根っこが着いたままの樹木等が発生する。</li> </ul>	<p>土砂に埋もれた家屋</p> 	<p>流出した樹木</p> 
竜巻	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ さまざまな種類の廃棄物がミンチ状に混ざった混合廃棄物が多く発生する。</li> <li>○ 倒木被害等による生木（抜根木も含む。）の割合が多い。</li> </ul>	<p>混合廃棄物</p> 	<p>倒木樹木</p> 
大雪	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 倒壊した農業用ハウス・果樹用ハウス等が排出される。</li> <li>○ その他、積雪によって倒壊した建物からの廃棄物の発生が想定される。（水分を多く含む可能性がある。）</li> </ul>	<p>農業用ハウス</p> 	
大規模火災	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 焼け焦げた廃棄物が排出される。</li> <li>○ 泥状にまみれた水分の多い廃棄物が排出される。</li> </ul>	<p>泥状にまみれた水分の多い廃棄物</p> 	

出典：「災害廃棄物対策フォトチャンネル」（環境省）

「震災伝承館」（東北地方整備局ホームページ）

「つくば市で発生した竜巻による災害廃棄物とその処理」（（独）国立環境研究所）

「平成12年（2000年）三宅島噴火災害の記録」（平成20年2月、東京都三宅村）をもとに作成

「糸魚川市駅北大火で発生した災害廃棄物処理に係る現地視察レポート」（国立環境研究所）

## 2 被害想定に基づく災害廃棄物の発生量

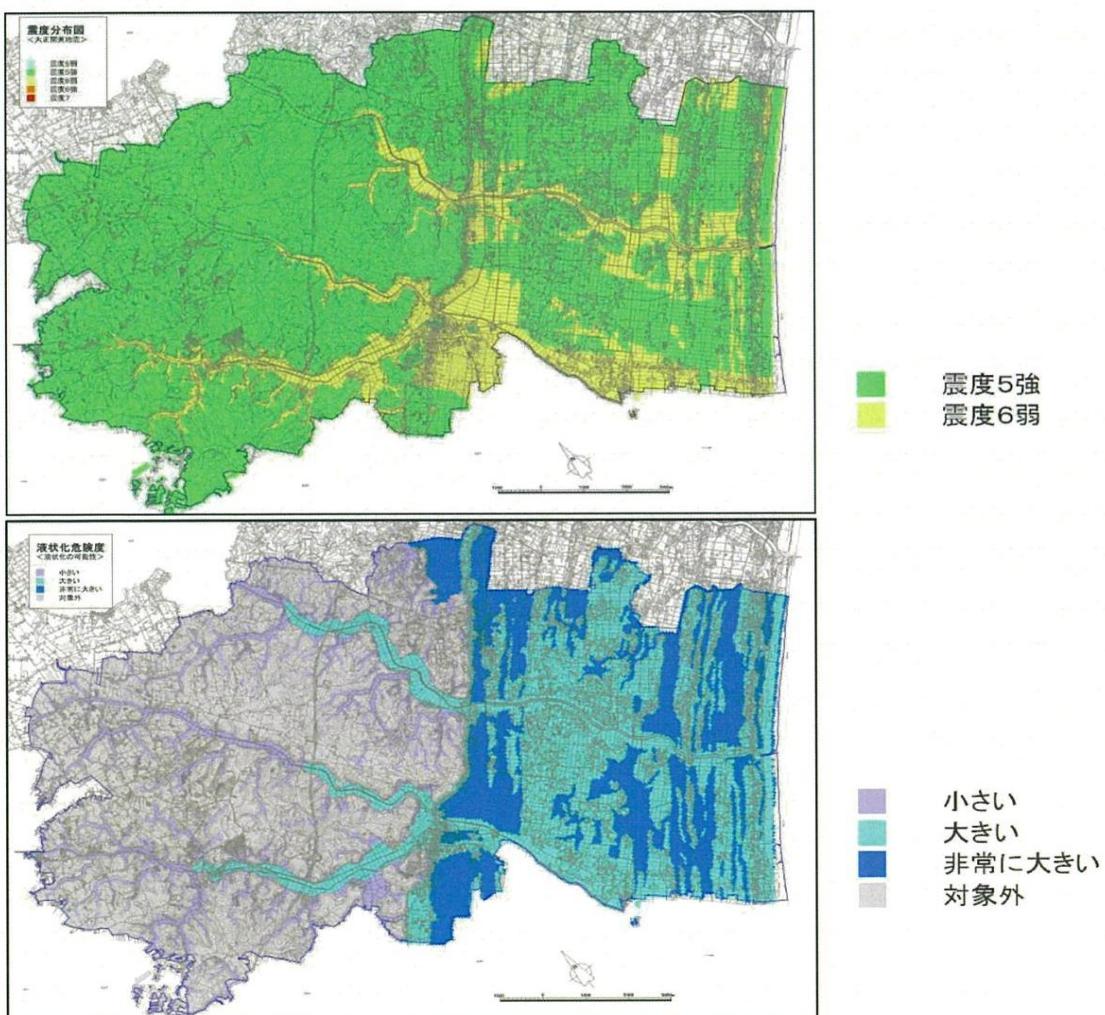
本市に甚大な被害をもたらすと想定される「大正関東地震」及び「明治三陸型地震が三重会合点（※）まで南下した場合の津波（10m津波を想定）」（震度分布図等は図表1-8を参照）に伴い発生する災害廃棄物の発生量を被害想定（出典：「山武市地域防災計画」（平成26年9月、山武市））に基づき推計した結果は、図表1-9及び図表1-10に示すとおりである。大正関東地震及び明治三陸型地震が三重会合点まで南下した場合の津波（10m津波を想定）では最大で約133万トンにも上る災害廃棄物が発生すると推計される。本計画は、そのような膨大な量の災害廃棄物が発生する可能性のあることを前提に必要な対応を定めたものである。なお、水害については、地震と比較して被害地域が限定的であることから、本計画では地震災害時の発生量を最大とみなして対応を検討する。

※日本の房総沖において、ユーラシア・北米・フィリピン海プレートが重なる地点

図表1-8 震度分布図等

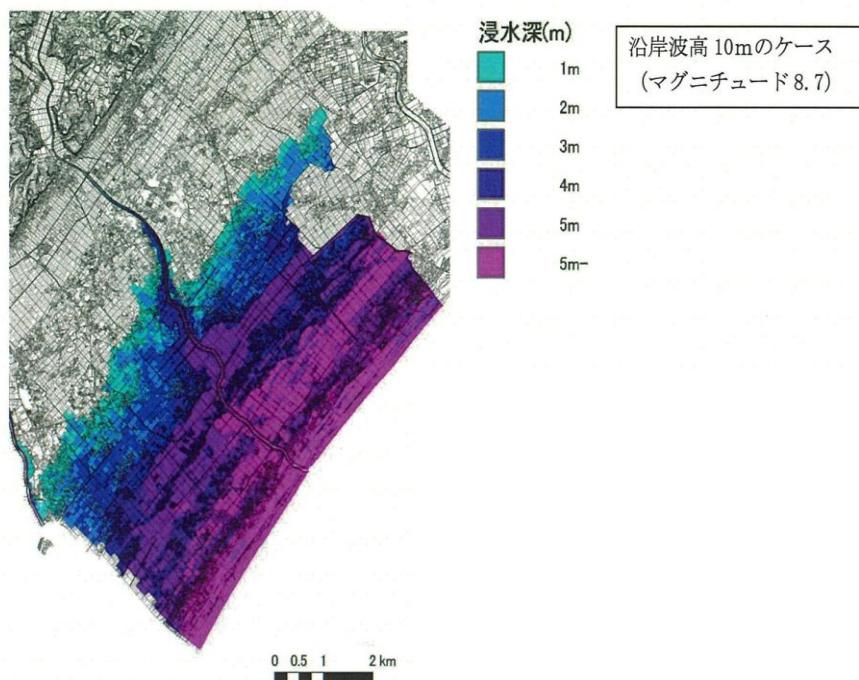
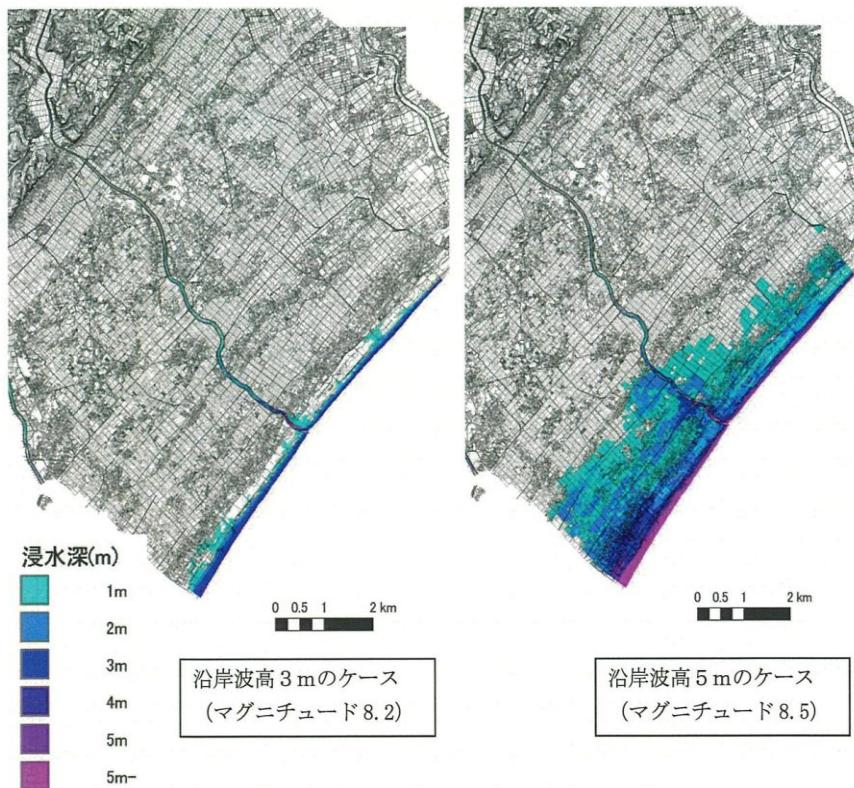
### 地震被害

#### (1) 震度・液状化



### 津波被害

津波は、東北地方太平洋沖地震（平成23年3月）と同様な海溝型地震として、山武市沿岸水深1mにおける平均波高が概ね3m、5m、10mとなる断層モデルを設定したものである。



出典：「山武市地域防災計画」（平成26年9月、山武市）

図表1-9 大正関東地震に伴う災害廃棄物等の発生量（推計）

分類	区分・内訳	発生量
損壊家屋等の撤去等に伴い生じる 廃棄物（トン）	合計	53,320
	可燃物	1,285
	不燃物	12,567
	コンクリートがら	26,144
	金属	566
	柱角材	12,759
片付けごみ（トン/年）※		9,409
避難所ごみ（トン/日）	発災1日後	1.7
し尿（kL/日）		25

※「損壊家屋等の撤去等に伴い生じる廃棄物」の外数となる。

図表1-10 明治三陸型地震で三重会合点まで南下した場合の津波（10m津波を想定）に伴う災害廃棄物等の発生量（推計）

分類	区分・内訳	発生量
損壊家屋等の撤去等に伴い生じる 廃棄物（トン）	合計	503,923
	可燃物	103,753
	不燃物	159,048
	コンクリートがら	201,149
	金属	14,034
	柱角材	25,938
津波堆積物（トン）		808,352
片付けごみ（トン/年）※		88,928
避難所ごみ（トン/日）	発災1日後	4.7
し尿（kL/日）		32

※「損壊家屋等の撤去等に伴い生じる廃棄物」の外数となる。なお、津波被害が生じる際の片付けごみの発生量については、公認の推計方法が確立されていないため、平成28年熊本地震の事例を基に推計しており、実際の災害廃棄物発生量は推計結果と差異が生じる可能性がある。今後、新たな知見が得られた場合は、適宜、見直しを図るものとする。

### 3 房総半島台風における災害廃棄物の発生量（参考値）

#### （1）房総半島台風の概況

令和元年9月7日に発生した台風第15号は、伊豆諸島や関東地方南部を中心に猛烈な風、猛烈な雨となり、9月9日には千葉県横芝光町において、最大風速20.9m/sec、風向南、24時間最大雨量132.5mm、1時間に32.5mmの猛烈な雨を観測した。この台風による暴風及び大雨により、横芝光町の南に位置する山武市では各地で倒木、屋根材の飛散、浸水等の被害が発生するなど甚大な被害が発生した。この台風に加えて令和元年10月6日、台風第19号が発生し、10月12日には同観測地点において、最大風速15.7m/sec、風向南、24時間最大雨量56.5mm、1時間に12.0mmの猛烈な雨を観測した。この台風により、山武市の一部で浸水等の被害が発生するなど甚大な被害が発生した。さらに、令和元年10月23日に東シナ海で発生した低気圧の影響により、10月25日には同観測地点において最大風速8.5m/sec、東南東、24時間最大雨量125.5mm、1時間に34.5mmの猛烈な雨を観測し、河川の氾濫等による浸水等の被害が発生するなど甚大な被害が発生した。これらの災害による建物の被害状況は全壊が4件、半壊が54件、床上浸水61件、床下浸水48件となった。

図表1-11 房総半島台風における災害廃棄物処理量（実績）

廃棄物の種類	処理量（t）
木材	665
瓦・スレート等	331
コンクリートがら	329
不燃材	107
金属くず	67
可燃ごみ	184
不燃ごみ	21
廃家電	6

#### 第4節 各主体の役割

##### 1 本市

災害廃棄物は一般廃棄物に位置付けられるものであり、その処理については、本市、近隣市町、山武郡市環境衛生組合、東金市外三市町清掃組合及び山武郡市広域行政組合環境アクリアプラントが、平時から災害時の対応について協議し、協力・連携体制を構築し、体制整備を図る。

本市が被災していない場合は、被災市町村からの要請に応じて、人材及び資機材の応援を行うとともに、被災地域の災害廃棄物の受入について一部事務組合や本市を含む構成市町と協議を行う。

##### 2 一部事務組合

一部事務組合（山武郡市環境衛生組合、東金市外三市町清掃組合及び山武郡市広域行政組合環境アクリアプラント）は、それぞれの実情に応じて、災害廃棄物等の分別、収集・運搬、中間処理に係る指揮又は助言を行い、本市を含む構成市町と連携して災害廃棄物等を適正かつ円滑・迅速に処理する。

##### 3 千葉県

千葉県は、処理主体である本市が適正に災害廃棄物の処理を行えるよう、被害状況や対応状況等を踏まえた技術的支援や各種調整を行う。

また、災害により甚大な被害を受けて本市の廃棄物所管部署の執行体制が喪失した場合など、地方自治法（昭和22年法律第67号）第252条の14の規定に基づき、本市が千葉県へ事務の委託を行った場合には、本市に代わって、千葉県が直接、災害廃棄物の処理の一部を担うことがある。

##### 4 国（環境省）

専門家等からなる災害廃棄物処理支援ネットワーク（D.Waste-Net）を整備し、災害時には専門家チームの派遣などにより技術的な指導・助言を行う。県及び市町村による災害廃棄物の処理が困難な場合、災害対策基本法に基づく市町村からの要請を受け、必要と認めた場合に、代行処理を行う。

##### 5 事業者

事業者は、事業場から排出される廃棄物の適正処理と円滑かつ迅速な処理に努める。千葉県と災害時の協力協定を締結している関係機関・関係団体は、千葉県の要請に応じて速やかに支援等に協力する等、その知見及び能力を活かした役割を果たすよう努める。また、危険物、有害物質等を含む廃棄物その他の適正処理が困難な廃棄物を排出する可能性のある事業者は、これらの適正処理に主体的に努める。

## 6 市民・災害ボランティア

本市が災害廃棄物を適正かつ円滑・迅速に処理することができるよう、市民及び災害ボランティアは片付けごみ等の災害廃棄物の排出段階での分別の徹底等、一定の役割を果たすよう努める。また災害ボランティアは、本市と連携して被災家屋の後片付け等の被災者支援を行う。

## 第5節 処理目標期間の設定

### 1 生活ごみ・避難所ごみ・し尿

災害時は、まず生活ごみ・避難所ごみ・し尿の収集運搬・処理を優先する。発災後、廃棄物処理体制に係る支障を確認し、支障がある場合はそれを除去し、速やかに生活ごみ・避難所ごみ・し尿の収集・処理を再開する。

### 2 災害廃棄物

早期の復旧・復興に向け、災害廃棄物の処理は可能な限り早期の完了を目指す。

腐敗性の廃棄物は初動期において最優先で処理する。

木材、金属くず、コンクリートがら、廃家電、廃自動車は、排出され次第、仮置場の空きスペースを確保するためにも早急に処理先や復興事業先へ搬出して処理する。

処理目標期間は、災害の規模や災害廃棄物の発生量に応じて適切に設定するが、大規模災害においても3年以内の処理完了を目指す。なお、処理期間について国の指針が示された場合は、その期間との整合性を図り設定する。

## 第6節 災害廃棄物処理の基本方針

災害時においても、できる限り平時に近い状態で廃棄物を適正かつ円滑・迅速に処理し、公衆衛生と環境保全を確保するため、次の災害廃棄物処理の基本方針を踏まえ、具体的な取組を進めていく。災害が発生した場合は、この基本方針に基づき、その災害の規模や特徴等を踏まえ、速やかに具体的な処理方針を定める。

図表1－12 災害廃棄物処理の基本方針

1 適切かつ迅速な処理	市民の生活再建の早期実現を図るため、時々刻々変化する状況に対応しながら、迅速な処理を行う。本市は、処理期間を定め、広域での処理が必要な場合は、県と協力して周辺や広域での処理を進める。
2 リサイクルの推進	徹底した分別・選別により可能な限り再生利用を推進し、埋立処分量の削減を図る。再資源化したものは復興資材として有効活用する。
3 環境に配慮した処理	災害時においても周辺環境に配慮し、適正処理を推進する。
4 衛生的な処理	生活ごみや避難所ごみ、し尿の処理を最優先とする。災害廃棄物については、有害性や腐敗性を踏まえ、処理の優先度の高いものから迅速に撤去及び処理を進める。
5 安全作業の確保	住宅地での撤去等の作業や仮置場での搬入、搬出作業において周辺住民や処理従事者の安全の確保を徹底する。
6 経済性に配慮した処理	公費を用いて処理を行う以上、最小の費用で最大の効果が見込める処理方法を選択する。

<b>7 関係機関・関係団体や市民、事業者、災害ボランティアとの協力・連携</b>	<p>早期の復旧・復興を図るため、国、県、他市町村、一部事務組合、関連機関・関係団体等と協力・連携して処理を推進する。</p> <p>また、市民や事業者、災害ボランティアにさまざまな情報を提供し、理解と協力を得て処理を推進する。</p>
---	--

#### 第7節 発災後における災害廃棄物処理実行計画の策定

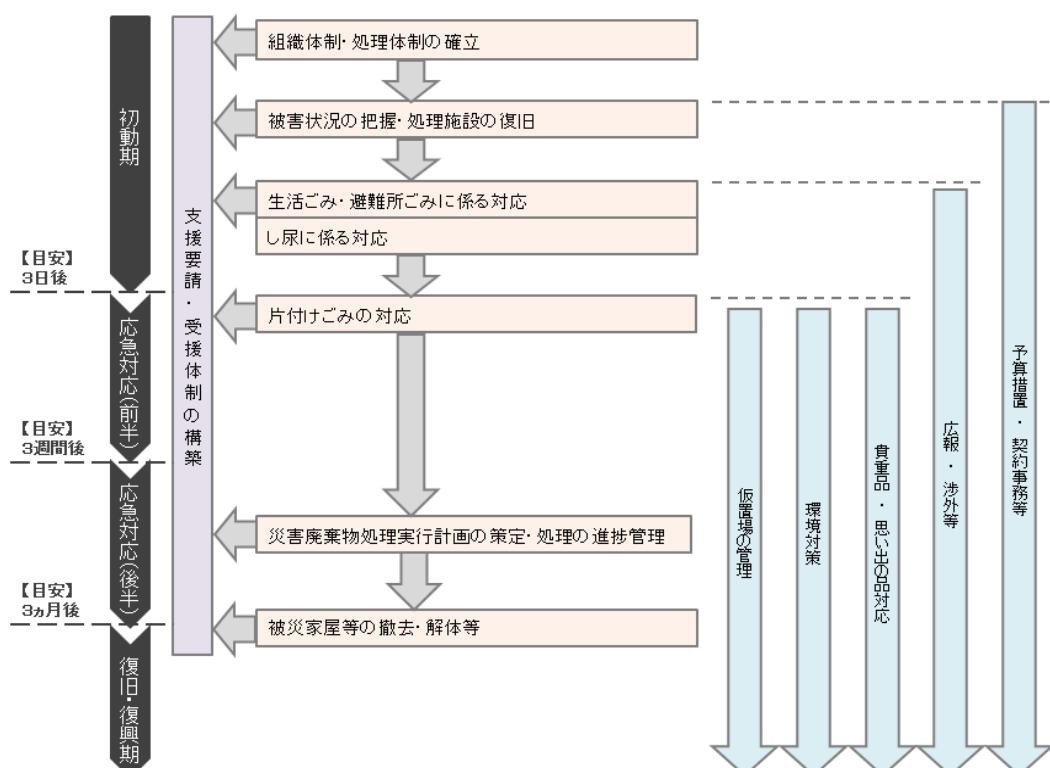
発災後は、被害状況や災害廃棄物の発生量（推計）を踏まえて、必要に応じて災害廃棄物処理実行計画を策定する。災害廃棄物処理実行計画は、関係者と情報を共有しながら処理の全体像を整理して策定する。災害廃棄物処理実行計画には、処理方針、発生量、処理体制、処理スケジュール、処理方法、処理フロー等を具体的に示す。

災害廃棄物処理実行計画は、処理の進捗等の状況に応じて見直し、改定していくものとする。なお、災害廃棄物処理実行計画は、処理業務の発注や補助金事務に係る資料として用いることができる。

#### 第8節 災害時における廃棄物対応の流れ

生活ごみ、避難所ごみ、し尿を含む、災害時において発生する廃棄物対応の大まかな流れを示す。

図表1－13 災害時における廃棄物対応の流れ



※時期の目安は「災害廃棄物対策指針（改訂版）」（平成30年3月、環境省）に従い記載。

図表1－14 発災後の時期区分と特徴

時期区分	時期区分の特徴	時間の目安
初動期	人命救助が優先される時期 (体制整備、被害状況の確認、必要資機材の確保等を行う。)	発災後数日間
応急対応 (前半)	避難所生活が本格化する時期 (主に優先的な処理が必要な災害時の廃棄物を処理する期間)	～3週間程度
応急対応 (後半)	人や物の流れが回復する時期 (災害廃棄物等の本格的な処理に向けた準備を行う期間)	～3ヶ月程度
復旧・復興	避難所生活が終了する時期 (一般廃棄物処理の通常業務が進み、災害廃棄物等を本格的に処理する期間)	～3年程度

出典：「災害廃棄物対策指針（改定版）」（平成30年3月、環境省）

#### （1）組織体制・処理体制の確立

廃棄物部局が中心となり、廃棄物処理のための組織体制及び処理体制を確立する。府内の組織体制の確立に当たっては、府内で職員の応援を受けることも含め、災害対策本部や建設・土木部局等の関係部局と連携する。

#### （2）被害状況の把握・処理施設の復旧

災害対策本部が集約する損壊家屋の被害棟数（全壊、半壊、床上浸水、床下浸水）を把握する。

また、廃棄物処理施設の被災状況を確認し、廃棄物処理施設が被災している場合には、復旧作業を実施又は依頼する。

#### （3）生活ごみ・避難所ごみに係る対応、し尿に係る対応

平時と同様に生活ごみを収集し、焼却施設へ運搬して処理を行うとともに、避難所ごみについても同様の対応を行う。また使用済みの携帯トイレ・簡易トイレへの対応や、仮設トイレが設置された場合には、その設置場所を把握し、し尿の汲み取り・処理を行う。

#### （4）片付けごみへの対応

市民が自宅を後片付けすることによって生じる家具・家財や廃家電等の廃棄物を仮置場で保管し、処理先へ搬出する。片付けごみが道路上に排出された場合には、パッカー車や平ボディ車により収集し、ごみ処理場又は一次仮置場まで運搬する。

#### （5）災害廃棄物処理実行計画の策定・処理の進捗管理

災害発生時には災害廃棄物処理計画に基づき被害の状況を速やかに把握し、必要に応じて災害廃棄物処理実行計画を策定する。また災害廃棄物の処理の進捗管理を行う。県は災害廃棄物処理実行計画の策定のための技術的支援を行う。

(6) 被災家屋等の撤去・解体

建設・土木部局や建設事業者等と連携し、災害によって損壊した家屋等の撤去（必要に応じて解体）を行う。撤去等は、倒壊のおそれのある家屋等を優先する等、優先順位をつけて作業を進める。

(7) 支援要請・受援体制の構築

人員や必要な資機材が不足する場合には、協定等を活用して他市町村や県、民間事業者等へ支援を要請する。被災自治体の廃棄物部局は支援を受け入れるための体制（受援体制）を構築する。

(8) 仮置場の管理

被災現場から搬出されてくる災害廃棄物を分別して仮置きし、焼却処理・リサイクル・最終処分ができるよう選別や破碎等を行う。

(9) 環境対策

災害廃棄物の積み上げに伴う蓄熱火災の発生防止や粉じん・騒音・振動、悪臭・害虫対策等、必要な環境対策を行う。

(10) 貴重品・思い出の品対応

廃棄物の中から貴重品が出てきた場合には警察に届け出る。思い出の品は適切に保管し、持ち主に返却する。

(11) 広報・渉外等

災害廃棄物の排出方法や分別に関して、市民や事業者へ広報を行う。また支援を受け入れたり、処理を依頼するために、支援者や処理先との交渉を行う。

(12) 予算措置・契約事務

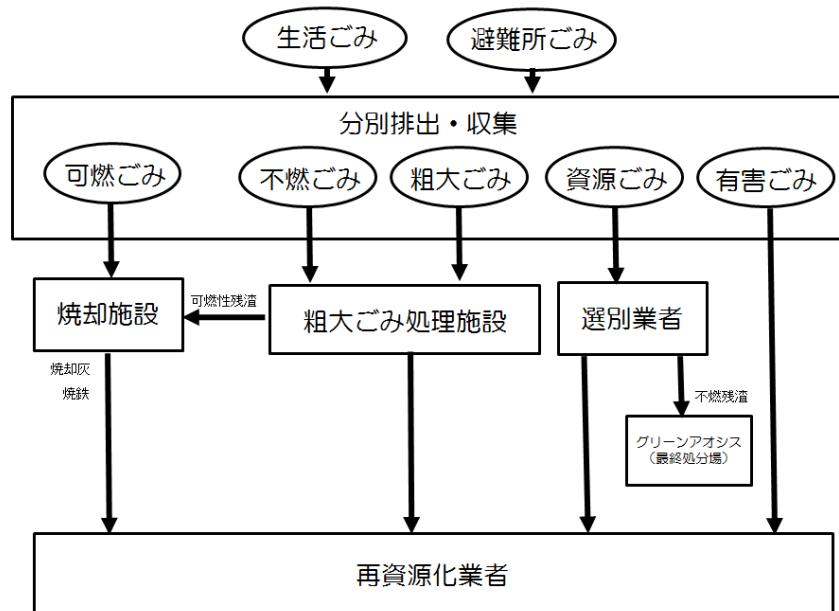
災害廃棄物処理のための事業費を確保する。また処理事業者との契約事務を行う。

## 第9節 災害時に発生する廃棄物の処理の流れ

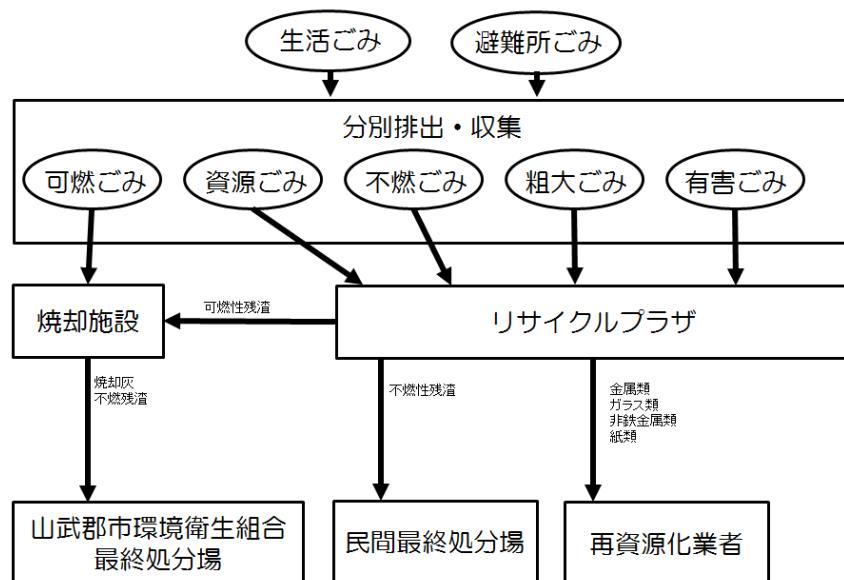
### 1 生活ごみ・避難所ごみの処理の流れ

被災地域における生活ごみ及び避難所ごみを平時と同様、普段利用しているごみ集積所を利用して収集し、処理施設へ搬入して処理する。焼却施設や不燃ごみ処理施設等から生じる焼却残さや不燃残さ等を最終処分する。

図表1－15 生活ごみ・避難所ごみの処理の流れ



東金市外三市町清掃組合フロー図（成東地域）

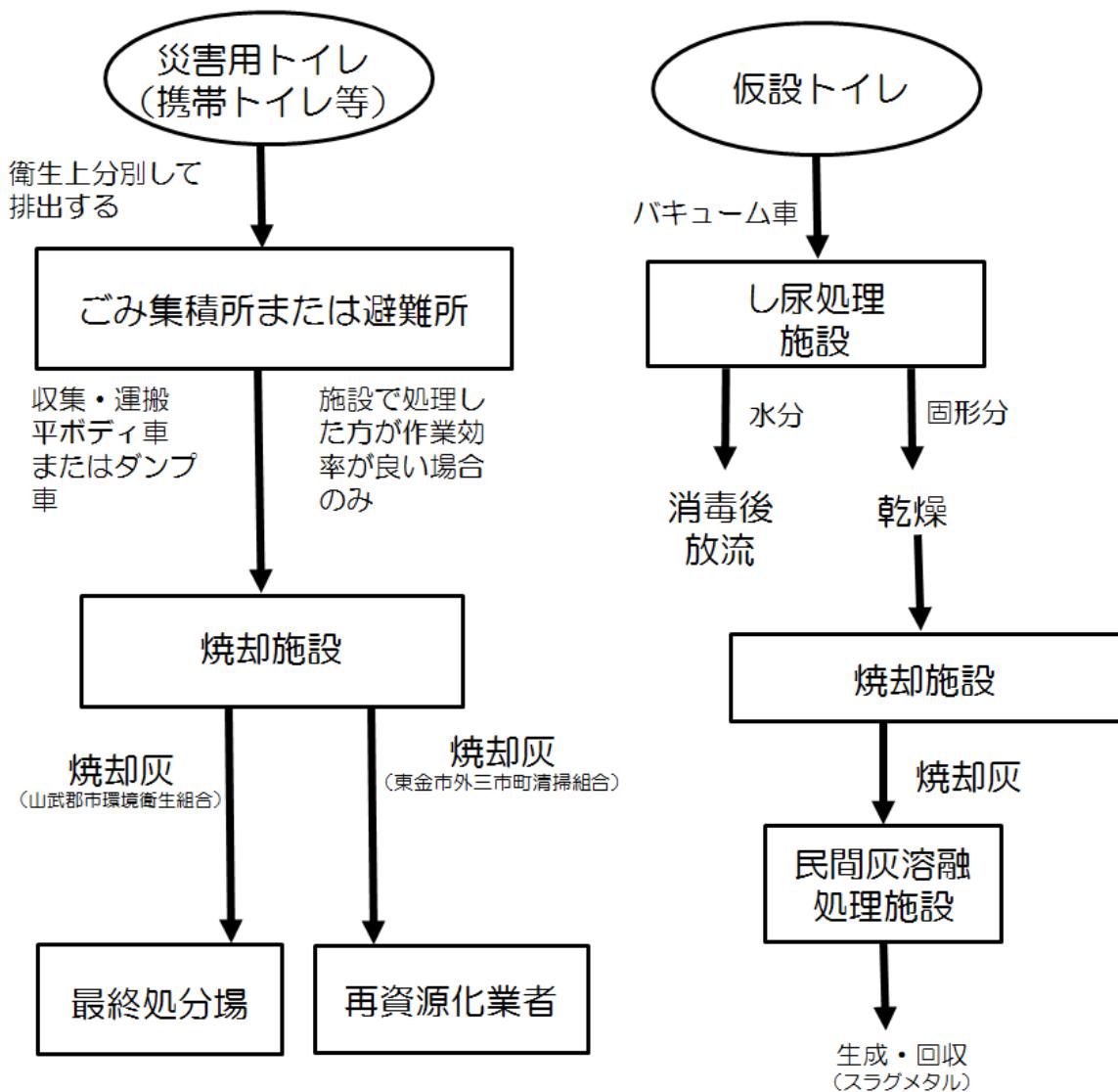


山武郡市環境衛生組合フロー図（山武・松尾・蓮沼地域）

## 2 し尿処理の流れ

汲み取りし尿は山武郡市広域行政組合環境アクアプラントへ運搬して処理する。携帯トイレ等は焼却施設へ搬入して焼却処理する。

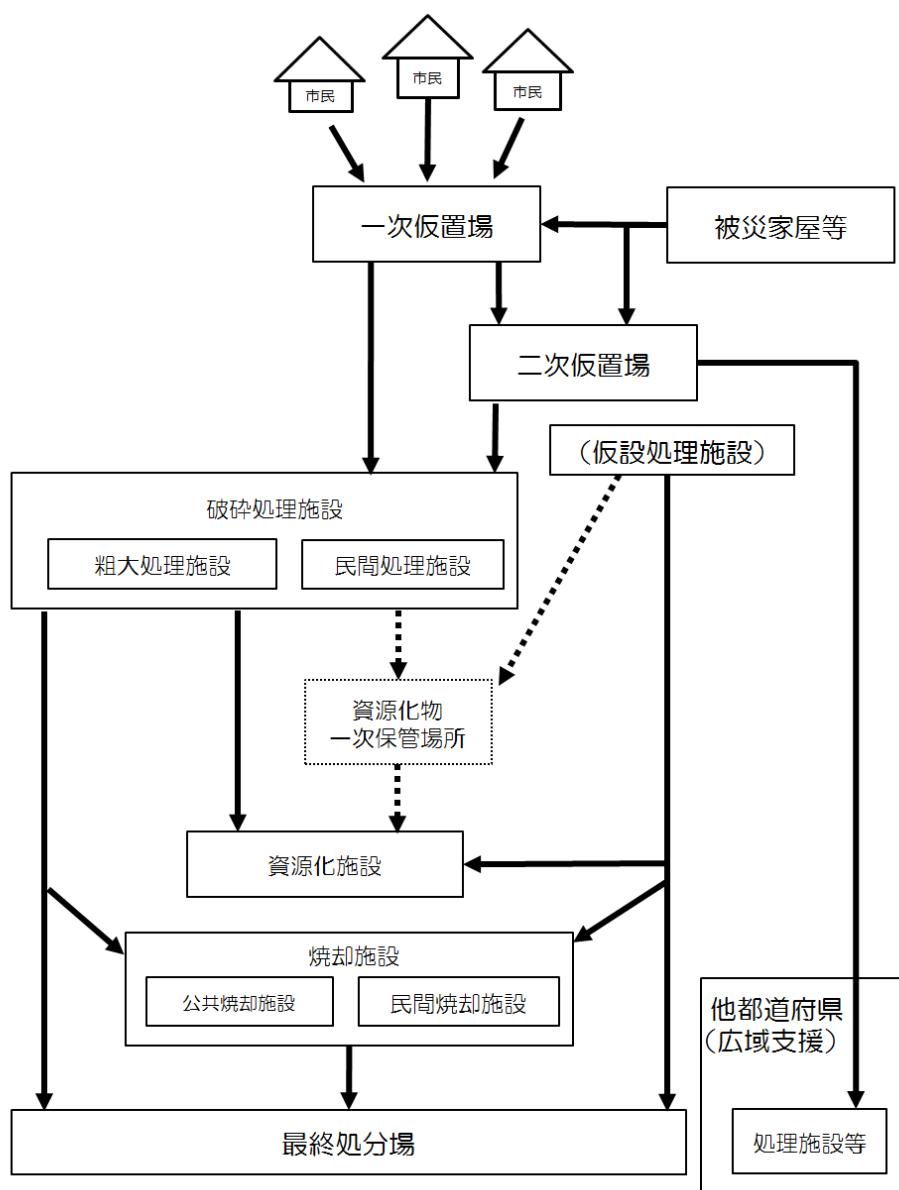
図表1－16 し尿処理の流れ



## 3 災害廃棄物の処理の流れ

市民が自宅の片付けを行った際に排出される片付けごみや損壊家屋の解体に伴い発生した廃棄物は、処理先への搬出までの間、一次仮置場で分別した上で一時的に保管する。必要に応じて二次仮置場、仮設処理施設、資源化物一時保管場所を設置し、管理する。一次仮置場から搬入される廃棄物を破碎・選別し、資源化や焼却等を行う。再資源化できない廃棄物は最終処分する。

図表1－17 災害廃棄物処理の流れ



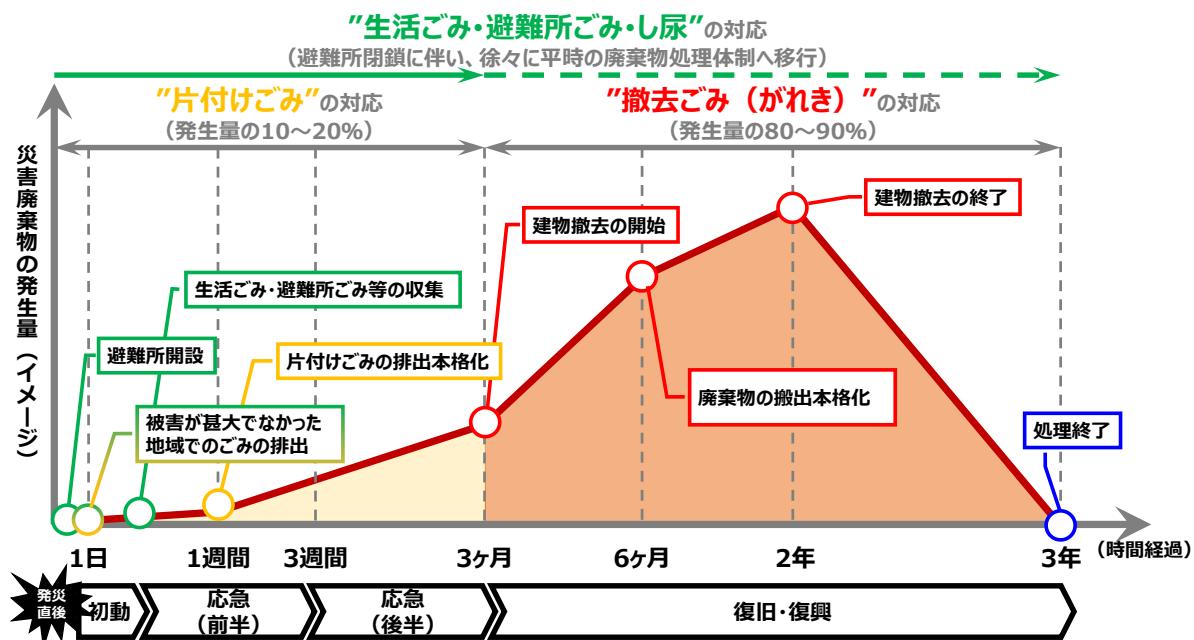
図表1－18 仮置場等の説明

用語	説明
一次仮置場	市民が直接持込みした災害廃棄物を集積し、分別後、処理施設又は二次仮置場まで搬出するまでの間、保管するため市が設置する仮置場。
二次仮置場	一次仮置場の災害廃棄物を、再度分別した後、破碎又は焼却等の処理をするまでの間保管する仮置場（仮設の破碎処理施設や資源物の一時保管場所を併設することもある。）。

## 第10節 災害廃棄物処理事業の全体像

災害廃棄物処理事業は図表1-16に示すとおり、発災直後から処理完了までの間に様々な対応が求められることから、安定的かつ着実に災害廃棄物処理対応に当たるためにも、発災後の時期区分に応じて、組織として適切に対応に当たる。

図表1-19 災害廃棄物処理事業の全体像



図表1-20 発災後の時期区分に応じた対応のポイント

時期	対応のポイント <sup>※1</sup>
初動期	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 安全及び組織体制の確保 通信手段の確保、安否情報・参集状況の確認、災害時組織体制への移行</li> <li>□ 被害情報の収集・処理方針の判断 被害状況収集、発生量推計に向けた情報収集、被災状況に応じた支援要請</li> <li>□ 生活ごみ・避難所ごみ・し尿の処理体制の確保 収集運搬体制の確保、住民・災害ボランティアへの周知、収集運搬の実施</li> <li>□ 災害廃棄物の処理体制の確保 仮置場の確保、災害廃棄物の回収方法の検討、収集運搬車両・資機材・人材の確保</li> </ul>
応急対応 (前半)	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 繼続的な一般廃棄物処理体制の確保 継続的な処理体制への移行、一般廃棄物処理の継続、処理方針の検討</li> <li>□ 災害廃棄物の適正処理及び仮置場の適切な管理 災害廃棄物発生量（概略値）の推計、生活ごみ・避難所ごみの収集・処理</li> </ul>

	<p>の開始、片付けごみの収集方法に係る周知、片づけごみの回収開始、設置した仮置場での日々の適切な管理・運営（分別仮置き、混廃防止措置、環境汚染対策、労働安全管理等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 災害廃棄物処理事業費の確保及び各種契約事務 補正予算の編成、災害等廃棄物処理事業費補助金の申請、災害報告書の作成、適正な契約事務対応、支出管理</li> <li><input type="checkbox"/> （必要に応じ）庁内体制の補強 人員補填・補強、プロジェクトチームの編成</li> </ul>
応急対応 (後半)	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 災害廃棄物処理実行計画の作成 災害廃棄物発生量の推計（見直し）、処理フローの精査、処理期間及び処理スケジュールの検討</li> <li><input type="checkbox"/> 損壊家屋等の撤去等に係る体制構築 技術職（土木・建築）や税務担当等も含めた庁内体制整備、対象案件の選定、要綱・様式等の作成、発注準備、住民等への周知、申請窓口の設置</li> </ul>
復旧・復興	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 災害査定対応に向けた準備※2 査定資料の作り込み、事前調整（日程調整、必要資料確認等）</li> <li><input type="checkbox"/> 災害廃棄物処理事業の進捗管理 全体管理（撤去進捗、処理進捗等）</li> <li><input type="checkbox"/> 損壊家屋等の撤去等に係る適正処理 損壊家屋等の撤去等、災害廃棄物の適正処理の推進</li> </ul>

※1 「災害時の一般廃棄物処理に関する初動対応の手引き（令和3年3月改訂、環境省）」、「市町村向け災害廃棄物処理行政事務の手引き（平成30年3月、東北地方環境事務所・関東地方環境事務所）」を参考に作成。

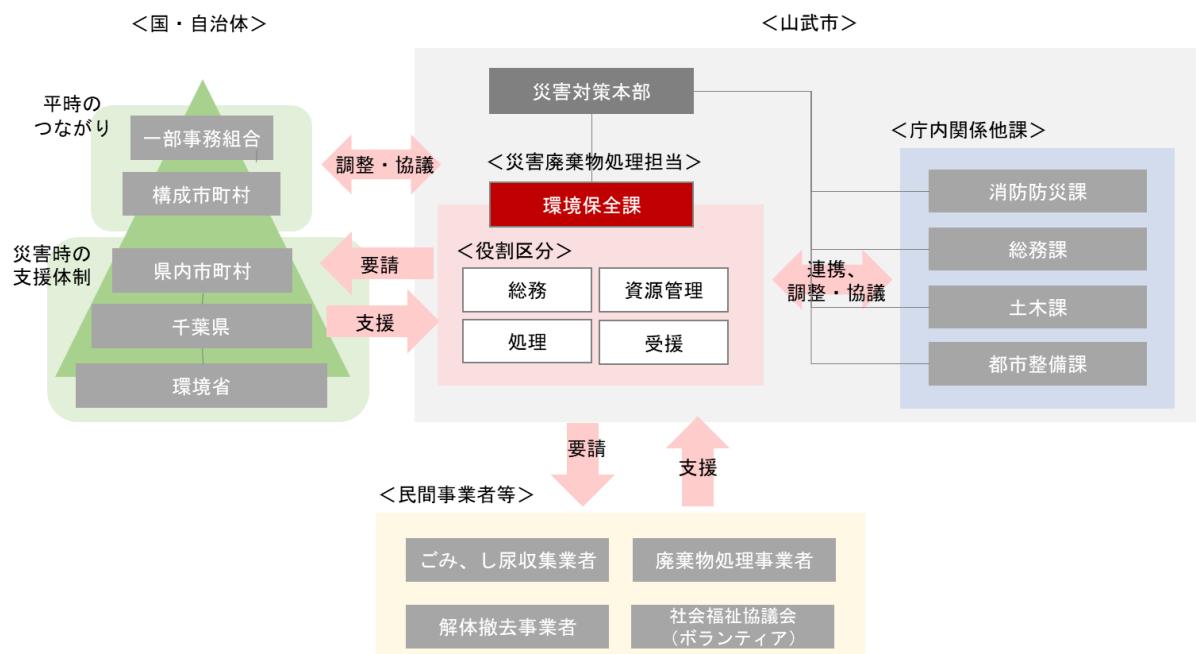
※2 一般に12月末までにすべての災害査定を終えるため、災害発生時期によっては前倒しとなることも想定される。

## 第2章 組織体制・情報共有

### 第1節 組織体制の確立

災害時は、本計画及び地域防災計画に基づき、災害廃棄物処理の組織体制を構築し、指揮系統を確立する。地域防災計画に基づく災害対策本部及び関係各部、一部事務組合、協定締結事業者等と情報共有し、連携して対応する。

図表2－1 災害廃棄物処理の組織体制



図表2－2 災害廃棄物処理に係る各班・担当の業務内容

班	担当	業務内容	各業務の担当課	連携する関係部署等
総務	総合調整	職員の収集状況の確認と配置の決定	環境保全課	総務課 消防防災課
		指揮命令、総括及び調整会議の運営		
		災害対策本部、各班・担当との連絡調整		
		災害廃棄物処理実行計画の策定		
		・災害廃棄物の発生量の把握と要処理量の推計 ・必要な仮置場の面積や施設の処理能力の把握		
		全般に関する進行管理		
		その他業務		
	財務	予算管理（要求、執行）		財政課
		業務の発注状況の管理		
		国庫補助のための災害報告書の作成		
	涉外	関係行政機関との連絡調整、協議、情報提供		総務課
		民間事業者との連絡調整、協議、情報提供		

班	担当	業務内容	各業務の担当課	連携する関係部署等
	広報	市民や災害ボランティア等への広報 市民や災害ボランティア等からの問合せ、苦情対応		消防防災課 秘書広報課 社会福祉課 社会福祉協議会
	許認可	処理業の許可及び施設の許可		山武都市環境衛生組合
資源管理	仮置場	一次仮置場の確保・設置 一次仮置場の管理・運営		財政課 消防防災課 土木課
	施設	処理施設の被害情報の把握 処理施設の復旧 被災施設の代替処理施設の確保 必要資機材の確保・管理		山武都市環境衛生組合 東金市外三市町清掃組合
処理	処理・処分	避難所ごみの収集運搬、処理 し尿の収集運搬、処理 道路啓開に伴う廃棄物対応 公共施設の解体対応 家屋撤去対応（窓口業務、り災証明交付業務との連携、撤去現場立会い） ※土砂混じりがれきを含む場合は、土木課とも連携を行う。 災害廃棄物の収集・運搬、処理 最終処分に関する調整 処理困難物の処理 処理に関する進行管理（処理済量、搬出予定量） 復興資材利用先に関する調整、選別後物の品質管理		山武都市環境衛生組合 山武都市広域行政組合環境アクリアプラント 土木課 各施設管理者 都市整備課 課税課 消防防災課 ※土木課 消防防災課 土木課
	環境・指導	民間事業者の指導 不法投棄、不適正排出対策 仮置場における環境モニタリング		山武都市環境衛生組合 東金市外三市町清掃組合
受援	受入	支援の受入管理（学識経験者、他自治体、事業者団体等）、受援内容の記録		財政課
	配置	受け入れた支援の配置先管理、支援側と受援側のマッチング		
				消防防災課 秘書広報課 総務課

※各業務に必要な人数は、時間の経過とともに変わるため、人員の配置や体制は隨時見直しを行う必要がある。

## 第2節 情報収集・連絡

### (1) 災害時

- 平時において確保した連絡手段を用いて災害廃棄物処理に必要な情報を入手する。

図表2-3 収集が必要な情報と入手する時期

分類	収集が必要な情報	時期	入手先
生活ごみ・避難所ごみ	避難所・医療救護所の開設場所、開設数、避難所・医療救護所毎の避難者数	初動～	消防防災課
	避難所ごみの発生量（推計値）	初動～	巻末資料を参考に推計
	道路の被災状況、道路啓開の状況、復旧の状況	初動～	消防防災課 土木課
	ごみ収集運搬車両の被災状況と稼動台数	初動～	山武都市環境衛生組合
	ごみ集積所（ごみステーション）の状況（ごみの排出状況）	初動～	収集運搬委託事業者
	一般廃棄物処理施設の被災状況と稼動可否、復旧見通し	初動～	山武都市環境衛生組合
	最終処分場の被災状況と搬入可否、復旧見通し	初動～	東金市外三市町清掃組合
し尿	避難所・医療救護所の開設場所、開設数、避難所・医療救護所毎の避難者数	初動～	消防防災課
	仮設トイレの設置場所、設置数、不足数	初動～	消防防災課
	道路の被災状況、道路啓開の状況、復旧の状況	初動～	消防防災課、土木課
	し尿処理施設の被災状況、搬入可否、復旧見通し	初動～	環境アクリアプラント
	し尿収集必要量（推計値）	初動～	巻末資料を参考に推計
	し尿等収集運搬車両の被災状況と稼動台数	初動～	環境アクリアプラント
災害廃棄物	道路の被災状況、道路啓開の状況、復旧の状況	初動～	消防防災課 土木課
	建物の被災状況（全壊、半壊、焼失棟数、床上浸水、床下浸水）	初動～	消防防災課
	一般廃棄物処理施設の被災状況と稼動可否、復旧見通し	初動～	山武都市環境衛生組合
	最終処分場の被災状況と搬入可否、復旧見通し	初動～	東金市外三市町清掃組合
	空地の被災状況	初動～	自ら入手
	一次仮置場の情報（設置場所、面積、逼迫状況等）	初動～	自ら入手
	重機、収集運搬車両等の確保状況	初動～	自ら入手
	建物の撤去等の状況（撤去棟数、撤去済棟数）	応急～	自ら入手
	災害廃棄物の発生量、広域処理必要量	応急～	巻末資料を参考に推計
	一次仮置場の災害廃棄物の保管状況	応急～	自ら入手
	一次仮置場からの災害廃棄物の搬出量、処理量	応急～	自ら入手
	り災証明書の発行状況	復旧～	課税課
	二次仮置場の情報（設置場所、面積、逼迫状況等）	復旧～	自ら入手
	二次仮置場の災害廃棄物の保管状況	復旧～	自ら入手
	二次仮置場からの災害廃棄物の搬出量、処理量	復旧～	自ら入手

※情報を入手する時期の区分は図表1-14を参照。

## (2) 平時

- 連絡窓口一覧表を作成、隨時更新し、県及び他市町村と共有する。
- 電話、防災行政無線（地上固定系無線）、衛星電話等を調達し、複数の連絡手段を準備する。また、非常用電源等を確保しておく。
- 情報機器及び周辺機器は、水害等の被害に遭わない場所に設置する。
- 収集運搬業者等の関係者等との災害時の連絡方法を確認する。

## 第3節 関係主体との協力・連携

県や県内市町村・一部事務組合、国や専門機関、廃棄物処理事業者等の民間事業者団体等、各主体との連携体制を構築し、災害廃棄物を処理する。その他、警察、消防、自衛隊等とも連携して対応に当たる。

図表2-4 主な関係主体と支援内容

関係主体	支援内容（例）
県内市町村	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活ごみ、避難所ごみ、し尿、災害廃棄物の収集運搬のための人員・車両の派遣、仮置場や処理施設への収集運搬の実施、処理施設での受入</li> <li>・仮置場の受付、災害廃棄物処理の事務作業支援</li> <li>・市民窓口対応</li> </ul>
県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内市町村間連携のための調整</li> <li>・収集運搬・処理に関する支援要請</li> <li>・災害廃棄物処理に関する技術的助言</li> <li>・仮置場としての県有地の提供 等</li> </ul>
一部事務組合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活ごみ、避難所ごみ、し尿、災害廃棄物の施設での受入 等</li> </ul>
民間事業者団体 (協定締結事業者を含む。)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活ごみ、避難所ごみ、し尿、災害廃棄物の収集運搬のための人員・車両の派遣、仮置場や処理施設への収集運搬の実施</li> <li>・仮置場の管理・運営、荷下ろし補助、重機等の資機材の提供</li> <li>・災害廃棄物の処理（広域処理を含む。）</li> </ul>
社会福祉協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廃棄物の分別に関する災害ボランティアへの周知</li> </ul>
国・専門機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広域処理に関する調整</li> <li>・災害廃棄物処理に関する技術的助言</li> <li>・補助金・査定対応等の事務対応に関する指導・助言</li> </ul>

### (1) 県内連携

災害廃棄物処理のための人員や資機材が不足する等、本市が単独で対応しきれない場合は、災害支援協定に基づき、県内市町村や県へ支援を要請し、連携して対応する。一部事務組合は、ごみ処理に係る技術力や経験を活かし、災害廃棄物の処理を行う。

### (2) 事業者との連携

大量の災害廃棄物が発生した場合、本市の一般廃棄物処理施設で処理しきれないと想定される。また、災害廃棄物は、産業廃棄物に類似した性状を有することから、産業廃棄物処理施設を活用して処理を行う。そのため県を通じて、千葉県産業資源循環協会等の関係団体に要請を行い、災害廃棄物処理を実施する。

### (3) 社会福祉協議会との連携

被災家屋等からの片付けごみを搬出及び運搬する作業は、災害ボランティアの協力が必要であり、災害ボランティアに対して安全具の装着等の作業上の注意事項や、災害廃棄物の分別、仮置場の情報を的確に伝えることが重要である。そのため、社会福祉協議会等が設置した災害ボランティアセンターに情報提供を行い、災害ボランティアへの周知を図る。

### (4) 国・専門機関による支援

災害廃棄物処理支援ネットワーク（D.Waste-Net）は、環境省・関東地方環境事務所を中心とし、国立環境研究所その他専門機関、関係団体から構成され、災害廃棄物処理の支援体制として設置されている。必要に応じて D.Waste-Net へ人材・資機材の支援を要請し、災害廃棄物の適正かつ効率的な処理を進める。

## 第4節 各種協定

発災後は、県や本市が締結している各種協定に基づき、関係主体と連携を図りながら、適正かつ円滑・迅速に災害時の廃棄物処理を進める。

また、平時から協定内容の点検・見直しを行う。

### (1) 災害時

- 各種協定に基づき、協定締結先に必要な支援を要請する。支援要請に当たっては、支援の実施までに時間を要することも想定されるため、速やかに必要な支援を把握し、協定締結先に要請する。

### (2) 平時

- 過去の発災時の対応状況や他自治体での災害対応事例等を踏まえ、全庁及び関係団体と定期的に協定内容の点検・見直しを行う。
- 不備な点は、各種協定を所管している部と協議・調整し、適宜協定内容の見直しを行う。

図表2-5 自治体間で締結している災害時支援協定

協定名	締結先	連絡窓口	連絡先
災害時における千葉県内市町村間の相互応援に関する基本協定	千葉県及び県内市町村	消防防災課	0475-80-1116
災害時等における廃棄物処理施設に係る相互援助細目協定	県内市町村及び一部事務組合	千葉県環境生活部循環型社会推進課	043-223-2645
廃棄物と環境を考える協議会加盟団体災害時相互応援協定	北茨城市ほか 64市町村	浦安市危機管理課	消防防災課経由で連絡 電話：047-712-6897
災害時における相互応援に関する協定に基づく支援要請	岩手県大船渡市 茨城県常総市 静岡県牧之原市 山形県長井市	要請を取りまとめる庁内他部局へ連絡	

図表2-6 民間事業者団体と締結している災害時支援協定

協定名	締結先	連絡窓口	連絡先
地震等大規模災害時における災害廃棄物の処理等に関する協定	社団法人千葉県産業廃棄物協会	千葉県環境生活部循環型社会推進課	043-223-2645
地震等大規模災害時における被災建物の解体撤去等に関する協定	千葉県解体工事業協同組合		
地震・風水害・その他の災害応急対策に関する業務基本協定	山武市建設業災害対策協力会	土木課	0475-77-8960
災害時における機材の供給等に関する協定	(株)アクティオ	東金営業所	0475-68-0011

※「地震等大規模災害時における災害廃棄物の処理等に関する協定」及び「地震等大規模災害時における被災建物の解体撤去等に関する協定」は、千葉県と社団法人千葉県産業廃棄物協会又は千葉県解体工事業協同組合が締結している災害時支援協定であり、本市から県へ要請することにより、活用が期待されることから、一覧に含めて整理している。

## 第5節 受援体制の構築

協定や相互支援の枠組み等に基づき、様々な主体からの支援が想定されるため、人的・物的支援を受け入れるための受援体制を早期に構築する。

### 1 受援体制構築の基本的な流れ

#### (1) 支援要請が必要な事項及び期間の整理

- 支援者への要望（何／誰を、いつまで、どのくらいの数／量、支援が必要か）を可能な限りとりまとめて支援要請書を作成する。支援先から先遣隊が派遣される場合には、先遣隊と調整・協議して要望をとりまとめる。

#### (2) 災害対策本部への報告

- 上記（1）でとりまとめた結果を、災害対策本部（又は受援班/担当）に報告する。

#### (3) 支援の要請

- 平時においてあらかじめ検討した支援要請手順を元に、災害の規模や被害状況を踏まえて支援要請を行う。支援要請の内容は、県や関東地方環境事務所とも共有する。

#### (4) 受入れ体制の構築

- 庁内職員と支援者の業務分担等を具体化しておく等、受援の計画を検討する。
- 支援者の執務環境（デスクやパソコン等）を準備する。
- 支援者の待機場所、定例ミーティングを開催できる環境を提供する。

#### (5) 支援者との情報共有

- 支援者との調整会議を定期的（できれば毎日）に開催し、役割分担、作業内容及び進捗状況等を確認する。

図表2-7 事前に準備すべき事項、配慮すべき事項

項目	準備内容
収集運搬計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 支援先から派遣される先遣隊と調整・協議して収集運搬計画を立案し、迅速に行動できるよう準備しておく。</li> <li>○ 災害廃棄物の集積場所や仮置場等が分かる地図、及び道路の被害状況等の情報を整理しておく。</li> <li>○ 高齢者や障害者等の災害弱者の情報を整理しておく。</li> <li>○ 応援車両の燃料を優先確保できるスタンド等を把握しておく。</li> <li>○ 「緊急車両」の表示幕を準備しておく。</li> </ul>
スペースの確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 支援者が執務できるスペースや、活動拠点における作業スペース、待機・休憩スペースを可能な限り提供する。</li> <li>○ 可能な範囲で、応援車両の駐車スペースを確保する。</li> </ul>
資機材等の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 執務を行う上で必要な文具や、活動を行う上で必要な資機材を可能な範囲で提供する。</li> </ul>
執務環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 執務できる環境として、可能な範囲で机、椅子、電話、インターネット回線等を用意する。</li> </ul>
宿泊場所に関する斡旋等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 支援者の宿泊場所の確保については、支援者で確保することを基本とするが、紹介程度は行う。また、必要に応じて斡旋する。</li> <li>○ ホテル等の確保が困難な場合は、避難所となっていない公共施設や庁舎等の会議室、避難所の片隅等のスペースの提供を検討する。</li> <li>○ 就寝のための布団等を準備する。</li> <li>○ 長期的な支援を受ける場合には、支援者のための住まいを確保することも検討する（東日本大震災では、支援者のために仮設住宅を確保した事例もある。）。</li> </ul>
後発部隊への引継	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 支援が後発部隊に引き継がれる場合には、要望事項や注意事項を後発部隊にも引き継ぐ（※先発部隊に対して後発部隊への引継を要望しておくことも可）。</li> </ul>

## 2 想定される支援メニュー及び支援主体

支援者が速やかに業務に着手できるよう、主体毎の受援メニューを整理しておく。

図表2-8 想定される支援メニュー及び支援主体

	受援メニュー（例）	学識経験者	他自治体	事業者団体 民間事業者	NGO/NPO 災害ボランティア
総合調整	対応方針検討、各種業務調整等		<input type="radio"/> ※1		
実行計画作成	実行計画作成の補助等		<input type="radio"/> ※1	<input type="radio"/> ※1	
設計・積算	発注に係る設計・積算補助等			<input type="radio"/> ※1	
契約	契約事務補助等			<input type="radio"/> ※1	
書類作成	災害報告書、査定資料等の作成補助等			<input type="radio"/> ※1	
収集運搬	生活ごみ等の収集運搬、分別作業等		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
情報収集	発災後の対応状況等に係る情報収集			<input type="radio"/>	
仮置場管理	仮置場における管理状況の監督等		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
現地確認	避難所や仮置場等の状況に係る情報収集		<input type="radio"/>		<input type="radio"/> ※2
窓口対応	窓口問合せ対応等		<input type="radio"/>		
広報	住民への広報（分別等）				<input type="radio"/>

※1 専門的な知識や過去の経験を有する者

※2 避難所におけるごみの分別指導等

### 第3章 一般廃棄物処理施設の被害状況の確認・報告と復旧

#### (1) 災害時

一般廃棄物処理施設の運営・管理者に連絡し、被災状況や稼働状況等を確認する。

#### (2) 平時

発災後に委託先の施設の被災状況や稼働状況等を速やかに確認することができるよう、一般廃棄物処理施設の運営・管理者の連絡先一覧を作成しておく。

**図表3－1 一般廃棄物処理施設の状況**

#### 【焼却施設】

施設名	年間処理量 (トン/年)	稼動日数 (日/年)	平均日量 (トン/日)	公称能力 (トン/日)	対象廃棄物	処理方式
山武郡市環境衛生組合	14,835	347	43	110 (55t ×2炉)	可燃ごみ	流動床式焼却炉
東金市外三市町環境クリーンセンターニー	42,660 (うち成東地域分: 5,320)	364	117	210 (3炉全体)	可燃ごみ、ごみ処理残渣	ストーカ式 (可動)

出典:「一般廃棄物処理事業実態調査」(平成30年、環境省)

#### 【粗大ごみ処理施設】

施設名	年間処理量 (トン/年)	稼動日数 (日/年)	平均日量 (トン/日)	公称能力 (トン/日)	対象廃棄物	処理方式
山武郡市環境衛生組合リサイクルプラザ	1,360	264	5	22 (粗大4t、可燃性粗大3t、資源15t)	資源ごみ、不燃ごみ、有害ごみ、粗大ごみ	破碎処理

施設名	年間処理量 (トン/年)	稼動日数 (日/年)	平均日量 (トン/日)	公称能力 (トン/日)	対象廃棄物	処理方式
東金市外三市町環境クリーンセンターニー	1,559 (うち成東地域分: 265)	244	6	10 (施設全体)	粗大ごみ	併用

出典:「一般廃棄物処理事業実態調査」(平成30年、環境省)

## 【し尿処理施設】

施設名	年間処理量 (kl/年)	稼動日数 (日/年)	平均日量 (kl/日)	公称能力 (kl/日)	処理方式		
					汚水処理	汚泥処理	資源化処理
山武郡市広域行政組合環境アクリアップラント	41,501	289	144	245	高負荷脱窒素処理方式 + 高度処理	脱水及び乾燥後に焼却処理 ※処理残渣は、民間業者に処理委託	焼却灰を民間委託にて溶融処理してスラグ化

出典：「一般廃棄物処理基本計画」（令和2年3月、山武郡市広域行政組合）を加筆

## 【最終処分場】

施設名	年間処分量 (トン/年)	全体容量 (m³)	残余容量 (m³)	埋立終了 年度	対象廃棄物
山武郡市環境衛生組合一般廃棄物最終処分場	1,789	44,227	13,000	令和11年度	焼却残渣、不燃物
施設名	年間処分量 (トン/年)	全体容量 (m³)	残余容量 (m³)	埋立終了 年度	対象廃棄物
グリーンオアシス大網	1,020 (うち成東地域分：150)	96,900 (施設全体)	78,238 (施設全体)	令和42年度	不燃ごみ、溶融スラグ

出典：「一般廃棄物処理事業実態調査」（平成30年、環境省）

図表3-2 一般廃棄物処理施設の位置



出典：「地理院地図」（国土地理院ホームページ）をもとに加筆・修正

## 第4章 生活ごみ・避難所ごみの処理

生活ごみや避難所ごみには、生ごみ等の腐敗性廃棄物が多く含まれるため、優先して回収・処理する。

### 第1節 生活ごみ・避難所ごみの発生

災害時の避難所では、非常食の容器等のごみが多く発生し、また、使用済み衣類や携帯トイレ、簡易トイレ等の平時とは異なるごみが発生する。既存の処理施設が被災した場合、避難所ごみを含む生活ごみの処理を近隣の市町村に要請することが必要になるため、まずはその量を把握することが必要となる。そのため、避難者数や発生原単位等から避難所ごみの発生量を推計する。なお、避難所ごみの発生量の推計方法は巻末資料を参照のこと。

図表4-1 避難所で発生する廃棄物の例

種類	発生源	管理方法
腐敗性廃棄物（生ごみ）	残飯等	悪臭やハエ等の害虫の発生が懸念される。袋に入れて分別保管し、早急に処理を行う。
ダンボール	食料・水の梱包	分別して保管する。新聞等も分別する。
ビニール袋、プラスチック類	食料・水の容器包装等	袋に入れて分別保管する。
携帯トイレ・簡易トイレ	携帯トイレ・簡易トイレ	感染や臭気の面でもできる限り密閉する。
感染性廃棄物（注射針、血の付着したガーゼ）	医療行為	保管のための専用容器を安全な場所に設置して管理する。収集方法に係る医療行為との調整（回収方法、処理方法等）

出典：「災害廃棄物対策指針」を元に一部加筆・修正

### 第2節 生活ごみ・避難所ごみの収集運搬・処理

#### (1) 災害時

##### 【避難所の開設状況の確認】

- 災害廃棄物担当部局は、災害対策本部を通じて、各避難所の避難者数、各避難所のごみ置場の設置場所を確認する。

##### 【収集運搬体制の構築】

- 災害廃棄物担当部局は、生活ごみ及び避難所ごみの収集運搬体制を確立する。
- 直営車両及び平時の収集運搬委託業者、協定締結先の車両を確保しても必要台数を確保できない場合は、県やD.Waste-Netへの広域支援要請、関東地域ブロックにおける災害廃棄物対策行動計画の枠組み等に基づき、収集運搬車両と人員に係る支援要請を行う。支援要請に当たっては、支援を必要とする収集運搬車両の種類と台数、支援を必要とする期間を連絡する。

##### 【作業計画の検討】

- 避難所ごみの発生量を推計する。推計した発生量、避難所の設置数・場所に基づき、収集ルートを決定し、作業計画を検討する。生ごみを含む可燃ごみの収集運搬を最優先に行う。作業時間は、確保できた人員、車両及び道路状況等により、平時よりも時間を要することを想定する。

## 【市民への周知及び広報】

- 収集するごみの優先順位、臨時的な分別方法、ごみ集積所・収集曜日・収集時間等の一時的な変更、避難所でのごみの排出方法等について市民へ周知及び広報を行う。
- 避難所ごみは、平時の生活ごみとは組成が異なり、特に衣類、ダンボール、容器包装プラスチック等が大量に発生することを踏まえ、分別区分や収集頻度等を設定する。
- 市民への周知・広報の方法は、避難所でのちらしの配布・貼紙、広報誌・ホームページ、広報車、マスコミの利用、町会・自治会へ周知する方法により行う。

## 【収集運搬の実施、処理先への搬入】

- 作業計画に基づき収集運搬を行う。
- 生活ごみ・避難所ごみは、仮置場に搬入せず既存の施設で処理を行う。
- 一般廃棄物処理施設が操業再開しておらず処理できない場合等については、県及び近隣市町村へ支援要請を行う。
- 事業系ごみについては、基本的には排出事業者の責任において一般廃棄物収集運搬業者に委託して焼却施設へ搬入するが、状況により本市が収集運搬を行う等柔軟な対応を検討する。
- 腐敗した事業系の食品廃棄物が大量に排出された場合など、公衆衛生上重大な影響が見込まれ、かつ、真に排出事業者のみで速やかな処理が困難な場合には、本市による収集も検討する。

## (2) 平時

- 生活環境の保全、公衆衛生の確保を最優先とし、ごみ種に応じて収集や処理の優先順位を検討しておく。（例、資源の収集は一時中止し、他の品目の収集に限定する等）
- 避難所の数及び場所を把握しておく。
- 収集運搬車両の台数、委託先等の情報を整理し、収集運搬車両の調達方法を確認しておく。
- 災害時における収集運搬業者・処理先への連絡方法を確認しておく。災害時は、避難所の開設・閉鎖、避難者数、道路被害・復旧状況等が日々変化するため、収集運搬業者と頻繁に連絡をとる必要があることから、災害時における連絡方法を決定しておく。

図表4-2 生活ごみ・避難所ごみの収集運搬車両の台数（令和2年4月時点）

単位：台

車両		使用燃料	委託
パッカー車 (回転式)	2トン車 (成東地域)	軽油	4（予備車1台含む）
	2トン車 (山武・松尾・蓮沼地域、山武郡市環境衛生組合委託分)	軽油	山武地域：4 松尾地域：3 蓮沼地域：1 (生活ごみの収集日がそれぞれ異なる。)

図表4-3 生活ごみ、避難所ごみの収集運搬・処理に係る関係者の連絡先

項目	名称	部署名	連絡先
県内連携	千葉県	循環型社会推進課 資源循環企画室	電話：043-223-2645 FAX：043-221-3970
収集運搬	山武郡市環境衛生組合（山武・松尾・蓮沼地域）	業務係	電話：0479-86-3131 FAX：0479-86-5109
	山武市シルバー人材センター		電話：0479-86-6616 FAX：0479-80-8280
	山武市建設業災害対策協力会		電話：0475-77-8960
	一般社団法人千葉県産業資源循環協会		電話：043-239-9920 FAX：043-239-9922
処理	東金市外三市町清掃組合（成東地域）	業務係	電話：0475-55-9132 FAX：0475-55-9575
	山武郡市環境衛生組合（山武・松尾・蓮沼地域）	業務係	電話：0479-86-3131 FAX：0479-86-5109
	一般社団法人千葉県産業資源循環協会		電話：043-239-9920 FAX：043-239-9922

## 第5章 仮設トイレ等・し尿の処理

### 第1節 し尿等の発生

災害時には、停電や断水、上下水道配管の損傷等により水洗トイレが使用できないおそれがあり、携帯トイレや簡易トイレ、仮設トイレ（汲み取り）の利用が想定される。ただし、避難所運営組織等によりボール等の水を使用できる場合は、施設内のトイレを使用することも想定される。トイレの種類によって収集運搬車両、処理方法が異なる。既存の処理施設が被災した場合、携帯トイレ等の処理やし尿の処理を近隣市町村へ依頼することになるため、避難者数や発生原単位等からし尿の発生量を推計する。なお、し尿の発生量の推計方法は巻末資料を参照のこと。

図表5-1 災害用トイレの種類

名称	説明
携帯トイレ	既存の様式便器について使用する便袋タイプ。吸水シートや凝固剤で水分を安定化させる。
簡易トイレ	段ボール等の組立て式便器に便袋をつけて使用する。吸水シートや凝固剤で水分を安定化させる。
仮設トイレ (汲み取り)	電気なしで使用できるものが多い。便槽に貯留する方式と、マンホールへ直結して流下させる方式がある。
仮設トイレ (マンホール)	下水道のマンホールや、下水管に接続する排水設備上に、便器や仕切り施設等を設置する。

出典：「避難所におけるトイレの確保・管理ガイドライン」（平成28年4月、内閣府）を元に一部加筆



仮設トイレ（汲み取り）<sup>※1)</sup>



出典 ※1) 「避難所におけるトイレの確保・管理ガイドライン」（平成28年4月、内閣府（防災担当））

## 第2節 仮設トイレ等の設置

### (1) 災害時

#### 【避難所の開設状況の確認】

- 災害廃棄物担当部局は、災害対策本部を通じて、各避難所の避難者数、各避難所のライフラインの被害状況、各避難所の仮設トイレ等の設置状況を確認する。

#### 【携帯トイレ・簡易トイレの使用】

- 停電や断水等により、排水処理機能に支障が生じている場合で、あらかじめ備蓄している携帯トイレや簡易トイレを使用する場合は、携帯トイレ等の排出場所や保管方法（大型ポリバケツやフレコンバッグ等）を検討する。また、携帯トイレ等の準備にあたっては、オストメイト用のトイレ等の整備も検討する。

#### 【仮設トイレの設置】

- 避難所毎の避難者数に基づき、仮設トイレ（汲み取り）を設置・増設する。
- 避難者だけではなく、断水等により水洗トイレが使用できなくなった在宅住民も仮設トイレを利用することを考慮し、適正な数を設置する必要がある。

#### 【仮設トイレの管理】

- 設置した仮設トイレ等を衛生的に管理するために、避難所運営や防疫活動に係る関係他部と連携し、消臭剤・脱臭剤の確保、その他備品・消耗品（手指用の消毒液、ウェットティッシュ、トイレットペーパー）の確保、定期的な清掃等を実施する。

### (2) 平時

- 関係他部局と協議・調整しながら、災害用トイレの備蓄を進める。仮設トイレ（汲み取り）については、高齢者や幼児が使いやすい洋式タイプや、車いす用のものも調達する。仮設トイレのレンタル事業者と協定の締結等を進め、災害時に仮設トイレが不足しないよう備える。
- 避難所における仮設トイレ等の使用・管理ルール等については、避難所運営に携わる関係者とあらかじめ協議・調整しておく。
- 発災後、早急に仮設トイレ等を設置し衛生的に管理できるよう、仮設トイレ等の設置手順、使用方法・管理方法等を検討しておく。

図表5-2 災害用トイレの備蓄数（令和3年4月時点）

品目	数量
携帯用トイレ（スケットトイレ）	16箱（100セット/箱）
機械式トイレ（ラップポン）	19台

### 第3節 し尿等の収集運搬・処理

#### (1) 災害時

##### 【収集運搬体制の構築】

- 災害廃棄物担当部局は、携帯トイレ・簡易トイレやし尿の収集運搬体制を確立する。
- 携帯トイレ・簡易トイレは平ボディ車で収集運搬する。パッカー車での収集は巻き込み時にし尿の漏れが懸念されるため、使用を避ける。なお、携帯トイレ・簡易トイレを人力で積み込めない場合は、クラム車等の必要な重機を確保する。
- し尿はバキューム車により収集運搬する。
- し尿の収集運搬に必要な人員及び車両の確保を環境アクアプラントへ依頼する。

##### 【作業計画の策定】

- し尿収集必要量を推計する。
- し尿収集必要量及び避難所の設置数・場所に基づき、環境アクアプラントとその委託業者と協議した上で収集ルートを決定し、作業計画を検討する。
- 作業時間は、確保できた人員、車両及び道路状況等により、平時よりも時間を要することを想定した計画とする。

##### 【バキューム車による収集運搬の実施、処理先への搬入】

- 作業計画に基づき収集運搬を環境アクアプラントへ依頼する。
- バキューム車で収集したし尿はし尿処理施設で処理する。
- し尿処理施設で処理できない場合については、環境アクアプラントが県及び近隣市町村へ支援要請を行う。

##### 【携帯トイレ・簡易トイレの収集運搬の実施、処理先への搬入】

- 作業計画に基づき収集運搬を行う。
- 平ボディ車で収集した携帯トイレ・簡易トイレは、必要に応じて試験焼却を行い、焼却施設で焼却処理する。
- 焚却施設が操業再開しておらず、処理できない場合等については、県及び近隣市町村へ支援要請を行う。

#### (2) 平時

- 避難所の数及び場所を把握しておく。
- 収集運搬車両の台数、委託先等の情報を整理し、収集運搬車両の調達方法を確認しておく。
- 災害時における環境アクアプラント及び収集運搬業者への連絡方法を確認しておく。災害時は、避難所の開設・閉鎖、避難者数、道路被害・復旧状況等が日々変化するため、環境アクアプラント及び収集運搬業者と頻繁に連絡をとる必要があることから、災害時における連絡方法を決定しておく。

図表5-3 し尿等の収集運搬車両の台数（令和3年4月時点）

単位：台

車両	使用燃料	委託
し尿収集車 (バキューム車)	2,700kg	1
	2,950kg	1
	3,000kg	6
	4,000kg	1
ダンプカー	2トン（成東地域）	4（予備車1台含む）
平ボディ車	2トン（山武・松尾・蓮沼地域）	3

図表5-4 農業集落排水施設受入可能量（令和3年4月時点）

単位：人／日

処理施設	所在地	受入可能量	連絡先
武野里地区汚水処理施設	山武市松尾町武野里671-1	200	農政課農村整備係 電話： 0475-80-1212
借毛本郷地区汚水処理施設	山武市松尾町折戸1187	800	
大平地区汚水処理施設	山武市松尾町広根2199	400	
大富地区汚水処理施設	山武市富田ト141	200	

図表5-5 し尿等の収集運搬・処理に係る関係者の連絡先

項目	名称	部署名	連絡先
県内連携	千葉県	循環型社会推進課 資源循環企画室	電話：043-223-2645 FAX：043-221-3970
し尿処理	山武都市広域行政組合 環境アクアプラント	管理係	電話：0475-54-0511 FAX：0475-54-0514
収集運搬	山武都市広域行政組合 環境アクアプラント	料金係	電話：0475-54-0531 FAX：0475-54-0514

## 第6章 災害廃棄物の処理

### 第1節 被災者や災害ボランティアへの周知・広報

災害時におけるごみの排出、収集・運搬方法、仮置場の開設・閉鎖、処理施設の稼動状況等、被災者（外国人を含む。）や災害ボランティア、事業者が必要とする情報について、様々な媒体を活用して積極的に周知・広報を行う。なお、被災者の親類縁者も休日を活用して手伝いに駆け付け、災害ボランティアと同様の活動を行うことも念頭において広報を検討・実施する。

また、市民や災害ボランティア、事業者が災害時の廃棄物やその処理に関して知識を醸成できるよう、平時より積極的に普及啓発を行う。

#### （1）災害時

- 被災地における生活環境の保全、適正かつ円滑・迅速な災害時の廃棄物処理の推進のため、市民や災害ボランティア、事業者に対して効率的に情報伝達が行えるよう、分別方法等に関して簡易マニュアルを作成する。また、関係機関（社会福祉協議会等）と協議のうえ、様々な媒体を活用して災害廃棄物の処理方法について周知・広報を行う。
- 水害時は、浸水被害により自宅内の通信機器が全て使えない状況に陥る市民がいることも想定し、ホームページによる広報だけではなく、避難所への掲示やちらし配布等も行う。
- 周知・広報の内容（例）は図表6－1に示すとおりであるが、すぐに仮置場を開設できない場合は、仮置場の開設準備が整うのを待って排出してもらうことを含めて周知・広報する。

図表6－1 情報提供を行う媒体と情報の内容（例）

情報提供の媒体（例）	情報の内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページ</li> <li>・広報誌</li> <li>・分別簡易マニュアル</li> <li>・ツイッター</li> <li>・市設掲示板</li> <li>・回覧板</li> <li>・ケーブルテレビ</li> <li>・防災行政無線</li> <li>・広報車 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生ごみ、資源ごみ等の収集日・収集回数の変更</li> <li>・市民が搬入できる仮置場の場所、排出可能時間・期間</li> <li>・災害廃棄物の分別の必要性、分別方法、分別の種類、搬入可能物</li> <li>・家電4品目の排出方法</li> <li>・家庭用ガスボンベ、スプレー缶等の危険物やアスベスト、PCB含有機器等の有害廃棄物の取扱方法</li> <li>・被災した太陽光発電設備の取り扱いに当たっての留意点</li> <li>・不法投棄、野焼き等の不適正処理禁止</li> <li>・便乗ごみの排出禁止</li> <li>・損壊家屋の撤去等に係る申請手続き</li> <li>・災害廃棄物に関する問合せ窓口</li> <li>・災害ボランティア支援依頼窓口</li> <li>・ごみ出しが困難な身体障害者、高齢者への支援方法</li> </ul>

(2) 平時

- 災害時においても野焼き、不法投棄は違法行為に当たること、不適正な排出が適正かつ円滑・迅速な処理に支障をきたし、災害時の廃棄物処理の遅れにつながること等について、平時から市民・災害ボランティア・事業者に啓発しておくとともに、発災時に広報する内容の詳細や広報の手段等について検討・準備を進める。

## 第2節 災害廃棄物等の発生量の推計

### (1) 災害時

#### 【災害廃棄物発生量の推計のための被害情報の把握】

- 建物の全壊・半壊棟数等の被害情報を把握する。
- 県や専門機関から提供される情報を活用する。

#### 【災害廃棄物の発生量の推計方法】

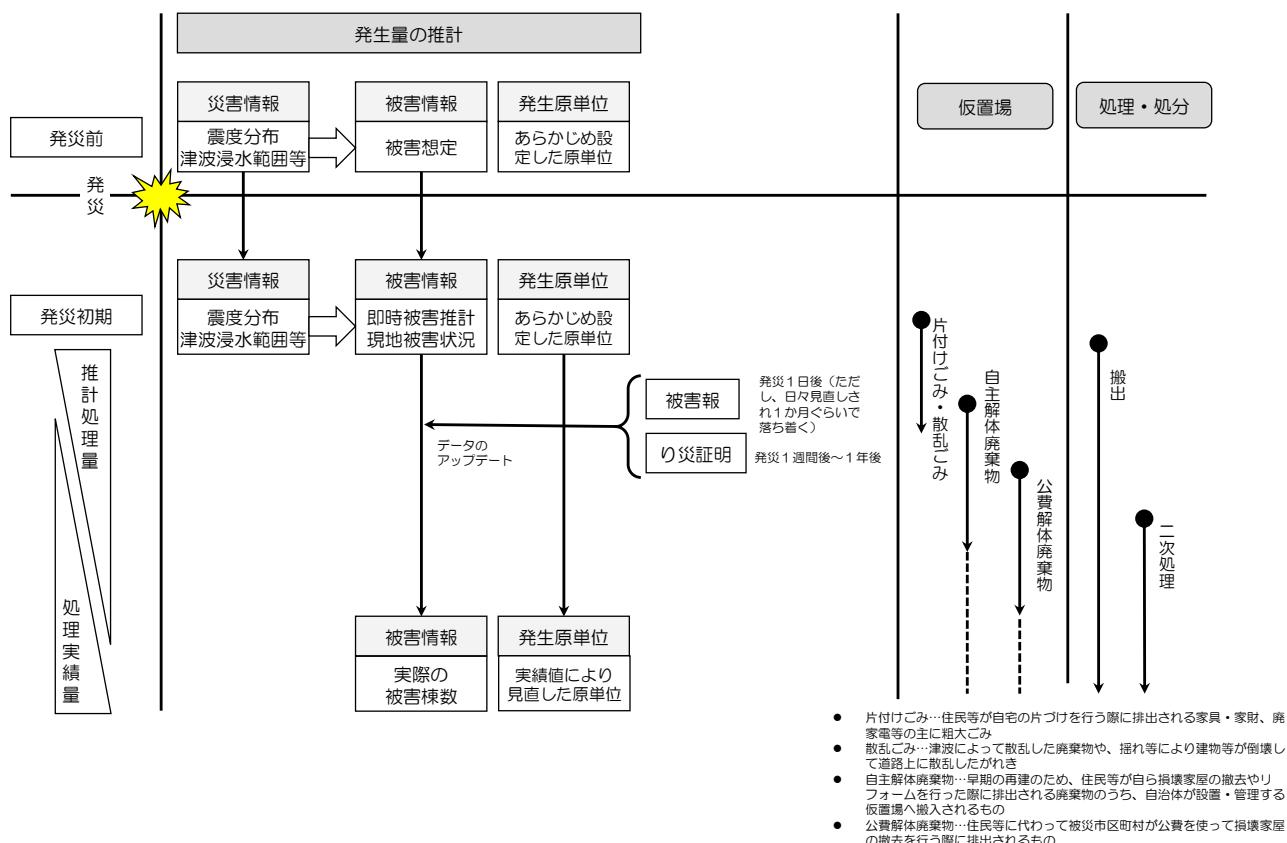
- 被害情報(建物の被害棟数)と災害廃棄物の発生原単位、種類別割合を用いて発生量を推計する。

$$\text{災害廃棄物の発生量} = \text{被害情報 (建物の被害棟数)} \times \text{発生原単位} \times \text{種類別割合}$$

#### 【災害廃棄物の発生量の見直し】

- 災害廃棄物の発生量は、災害廃棄物の適正かつ円滑・迅速な処理を進めるうえでの基礎的な資料となり、災害の種類やタイミングに応じて推計方法を選択、活用することが重要である。
- 図表6-2では発災前と発災後のフェーズで災害廃棄物の発生量を算定する際に活用ができるデータを整理している。建物の被害棟数の情報は、時間の経過とともに変わる。台貫(トラックスケール)での計量、仮置場内の測量等による実績値を用いて、発生量を見直す。

図表6-2 災害フェーズに応じた災害廃棄物の発生量の推計



(2) 平時

- 被害想定に基づき災害廃棄物等の発生量を推計する。「大正関東地震」及び「明治三陸型地震が三重会合点まで南下した場合の津波」に伴う災害廃棄物等の発生量は、図表1-9及び図表1-10に示したとおりである。なお、発生量の推計方法、発生原単位及び種類別割合は巻末資料を参照のこと。
- 水害に伴う災害廃棄物等の発生量については、洪水ハザードマップに基づき、建物被害棟数等を算定し、それを用いて推計する。

### 第3節 片付けごみの回収

#### (1) 災害時

##### 【片付けごみの回収戦略】

- 災害の種類によって片付けごみの排出時期は異なるが、水害の場合は水が引いた直後からすぐに自宅の片付けが開始されることから、すぐに片付けごみが排出され、発災翌日から問い合わせが頻繁に発生する可能性がある。
- 片付けごみは本市が設置・管理する仮置場へ市民にできるだけ搬入してもらうものとし、発災直後から仮置場を設置する。原則として、片付けごみのステーション回収は行わないが、指定のごみ収集袋で分別・回収が可能な廃棄物（食器などの不燃ごみや食品などの可燃ごみ等）については、ステーション回収を行う。
- ごみ出しができない高齢者等の災害弱者に対しては、災害ボランティアによる支援や状況に応じて本市による戸別回収を検討する。

##### 【仮置場の設置】

- 次節の「第4節 仮置場」を参照のこと。

##### 【収集運搬車両の確保】

- ごみ出しができない高齢者等の災害弱者等が排出する片付けごみを回収するための車両を確保する。
- 仮置場が逼迫し、万一、身近な空地や道路脇等に片付けごみが自然発生的に集積された無人の集積所（いわゆる勝手仮置場）が発生した場合は、これを回収するための車両の確保を行う。勝手仮置場では片付けごみが混合状態になっていることを前提とすることが必要であり、回転式のパッカー車では回収が難しいため、プレス式のパッカー車や平ボディ車を準備する。
- 準備する車両は、大型車の方が運搬効率は良いが、小型車でないと通行できない道路もあるため、勝手仮置場の設置場所に応じた大きさの車両を確保する。
- 収集運搬車両等が不足する場合は、近隣市町村や県、D.Waste-Netへの広域支援要請、関東地域ブロックにおける災害廃棄物対策行動計画の枠組みや既存協定等に基づき、収集運搬車両と人員に係る支援要請を行う。支援要請に当たっては、支援を必要とする収集運搬車両の種類と台数、支援を必要とする期間を連絡する。

##### 【収集運搬ルートの決定】

- 道路の被災状況や交通渋滞を考慮した効率的な収集運搬ルートを決定する。ルートの検討に当たっては、支援者を交えた調整を行う。

#### (2) 平時

##### 【収集運搬車両の確保・連絡体制】

- 本市及び事業者が所有する収集運搬車両の台数を把握する。パッカー車だけではなく、平ボディ車の台数も把握する。

- 収集運搬に係る連絡体制について、関係者の連絡先一覧を作成し、隨時更新・共有する。

図表6-3 片付けごみの収集運搬車両の台数（令和2年4月時点）

単位：台

車両	使用燃料	市直営	委託
パッカー車 (回転式)	2トン (成東地域)	軽油	4台 (予備車1台含む。)
	2トン (山武・松尾・蓮沼 地域、山武郡市環境 衛生組合委託分)	軽油	4台
ダンプカー	2トン (成東地域)	軽油	4台 (予備車1台含む。)
平ボディ車	1トン	レギュラー	1台
	2トン (山武・松尾・蓮沼 地域、山武郡市環境 衛生組合委託分)	軽油	3台

図表6-4 片付けごみの収集運搬・処理、仮置場の設置・管理・運営に係る関係者の連絡先

項目	名称	部署名	連絡先
県内連携	千葉県	循環型社会推進課 資源循環企画室	電話：043-223-2645 FAX：043-221-3970
	災害時における千葉県内市町村 間の相互支援に関する基本協定 (県内全市町村及び千葉県)		
	災害時における廃棄物処理施設 に係る相互援助細目(県内全市町 村及び一部事務組合)		
収集運搬	山武郡市環境衛生組合 (山武・松尾・蓮沼地域)	業務係	電話：0479-86-3131 FAX：0479-86-5109
	山武市シルバー人材センター		電話：0479-86-6616 FAX：0479-80-8280
	山武市建設業災害対策協力会		電話：0475-77-8960
	一般社団法人千葉県産業資源循環協会 (千葉県循環型社会推進課経由で依頼)		電話：043-223-2645 FAX：043-221-3970
	D.Waste-Net (全国都市清掃会議・廃棄物関係団体) (千葉県・関東地方環境事務所経由で依頼)		
処理	東金市外三市町清掃組合(成東地 域)	業務係	電話：0475-55-9132 FAX：0475-55-9575
	山武郡市環境衛生組合 (山武・松尾・蓮沼地域)	業務係	電話：0479-86-3131 FAX：0479-86-5109
	一般社団法人千葉県産業資源循環協会 (千葉県循環型社会推進課経由で依頼)		電話：043-223-2645 FAX：043-221-3970

#### 第4節 仮置場

災害廃棄物の処理の準備が整うまでの間、仮置場で適正に廃棄物を保管する。仮置場での廃棄物の保管に当たっては、その後の処理に影響を来たさないよう、廃棄物の種類毎に分別仮置き・保管する。

##### (1) 災害時

###### 【一次仮置場の選定】

- 平時に選定した仮置場の候補地の中から被害状況を踏まえて一次仮置場を選定する。選定に当たっては実際に使用できるか、現地確認を行う。
- 候補地は、緊急のヘリポートや応急仮設住宅等の候補地となっている可能性があるため、関係他課に使用状況を確認し、必要に応じて調整・協議して確保する。
- 仮置場の近隣住民に対して、仮置場の必要性を説明して設置する。一次仮置場は、一定の期間（少なくとも数ヶ月間）設置されることも合わせて説明し、理解を得た上で設置する。

###### 【一次仮置場の設置】

- 図表6-5に示す配置計画を検討する際のポイントに留意して一次仮置場を設置する。
- 一次仮置場に必要な資機材を巻末資料に示す。

図表6-5 一次仮置場の配置計画（レイアウト）を検討する際のポイント

###### 【出入口】

- ・ 出入口には門扉等を設置する。門扉を設置できない時は、夜間に不法投棄されないよう、重機で出入口を塞いだり、警備員を配置する。
- ・ 片付けごみの搬入量を把握するため、車両の搬入台数を記録する。公費解体に伴い発生した災害廃棄物については、その搬入量・搬出量の概略値の把握や処理先へ搬出する際の車両の過積載防止のために、必要に応じて簡易計量器を出入口に設置する。

###### 【駐車場、待車スペース】

- ・ 仮置場の作業員等が使用するための駐車場スペースを確保する。
- ・ 渋滞防止のため、仮置場への搬入車両や仮置場からの搬出車両が待機するための待車スペースを可能な範囲で確保するよう努める。

###### 【動線】

- ・ 搬入・搬出車両の動線を考慮する。左折での出入りとし、場内は一方通行とする。そのため、動線は右回り（時計回り）とするのがよい。場内道路幅は、搬入車両と搬出用の大型車両の通行が円滑にできるよう配慮する。

###### 【地盤対策】

- ・土地の返還を想定して仮置き前に土壤の採取を行い、必要に応じて分析できるようにしておく。
- ・降雨時等に災害廃棄物からの油脂、塩類、有害物質等の溶出が想定されることから、遮水シート敷設等による漏出対策について必要に応じて検討する必要がある。
- ・仮置場の地面について、特に土（農地を含む）の上に仮置きする場合、車両・建設機械の移動や作業が行いやすいよう鉄板、砕石等を手当する。仮置場は運動場等に設置される場合が多いが、運動場は多くの車両が走行することは想定されていないため、鉄板や砕石等の敷設が必須である。選択に当たっての利点・欠点を図表6-6に示す。
- ・過去の災害では、敷鉄板や砕石を確保できないこと等から、仮置場へ搬入された廃畳や廃瓦、土砂、コンクリートがら等を仮置場の地盤整備に活用した事例がある。ただし、これらの対応は、発災直後で確保できる資機材や時間に制約がある中で実施されたものであり、必ずしも標準的な方法ではない。やむを得ず実施する場合には、仮置場を復旧する段階で活用した廃棄物を撤去して災害廃棄物として処理する必要がある。

#### 【災害廃棄物の配置】

- ・災害廃棄物は分別して保管する。
- ・災害廃棄物の発生量や比重を考慮し、木材等の体積が大きいもの、発生量が多いものはあらかじめ広めの面積を確保しておく。災害の種類によっては、発生量が多くなる災害廃棄物の種類は異なることから、災害に応じて廃棄物毎の面積を設定する。
- ・災害廃棄物の搬入・搬出車両の通行を妨害しないよう、搬入量が多くなる災害廃棄物（例：可燃物／可燃系混合物等）は出入口近傍に配置するのではなく、仮置場の出入口から離れた場所へ配置する。
- ・搬入量が多く、大型車両での搬出を頻繁に行う必要がある品目については、大型車両への積み込みスペースを確保する。
- ・スレート板や石膏ボードにはアスベストが含まれる場合もあるため、他の廃棄物と混合状態にならないよう離して仮置きする。また、スレート板と石膏ボードが混合状態にならないよう離して仮置きし、散水の実施やシートで覆うなどの飛散防止策を講じる。
- ・その他の有害・危険物、その他適正処理が困難な廃棄物が搬入された場合には、他の災害廃棄物と混合しないよう、離して保管する。
- ・万一、灯油等の可燃性の危険物が持ち込まれた場合には、熱源又は燃えやすいものの近くには保管せず、管理がしやすい見えやすい場所に保管する。
- ・廃棄物の種類によっては、アームロール車の荷台を設置しておき、廃棄物を搬入者に投入してもらい、そのまま荷台を処理先へ搬出するという方法が効率的である。
- ・時間の経過とともに、搬入量等の状況に応じて、仮置場のレイアウトを変更する。

#### 【その他】

- ・仮置場には、災害廃棄物処理事業の対象ではない「便乗ごみ」が排出されやすいため、受付時の被災者の確認、積荷チェック、周囲へのフェンスの設置、出入口への警備員の配置など防止策をとる。フェンスは出入口を限定する効果により不法投棄を防止することに加え、周辺への騒音・振動

等の環境影響の防止や目隠しの効果が期待できるものもある。

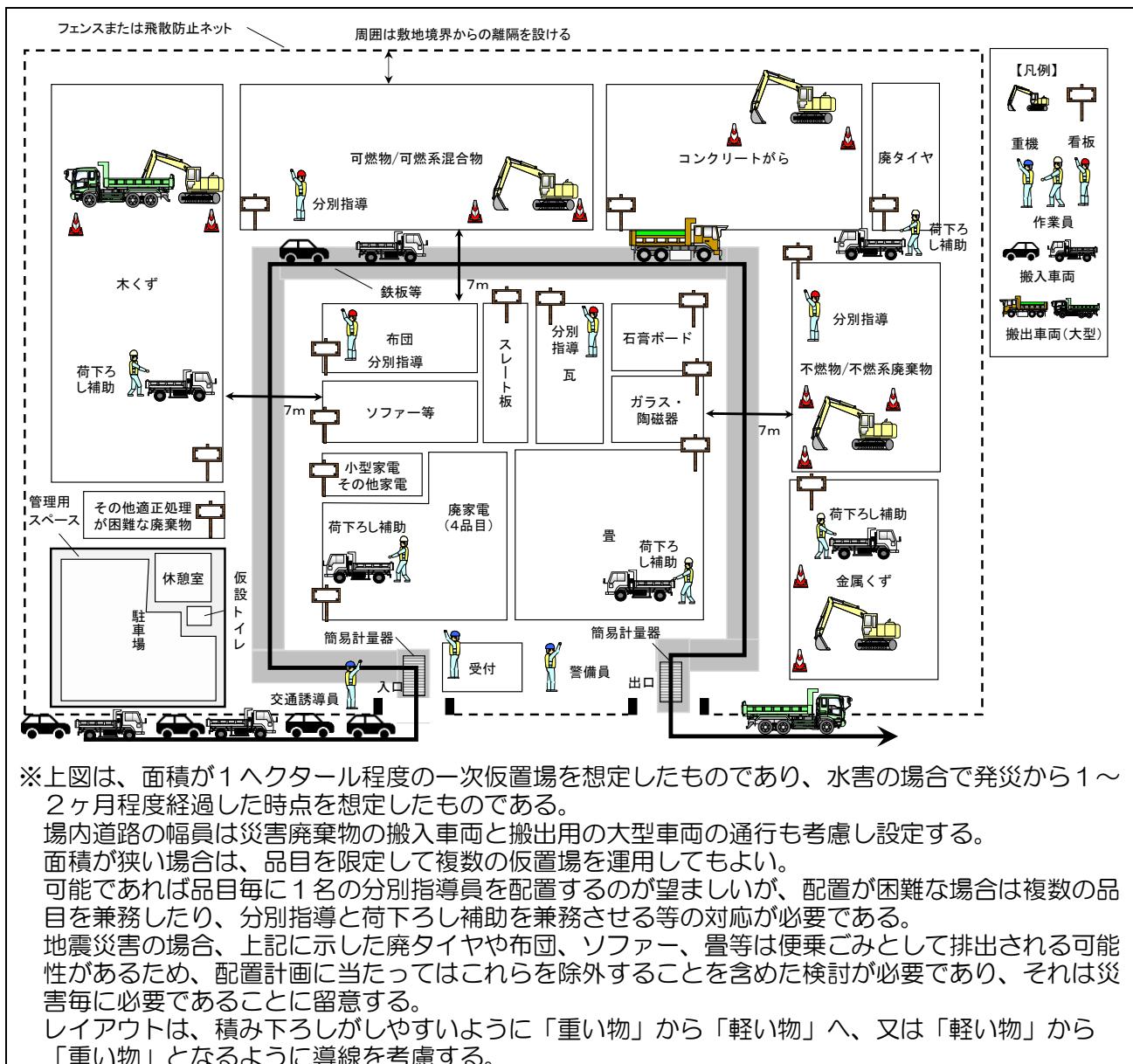
- ・木材、がれき類等が大量で、一次仮置場で破碎したほうが二次仮置場へ運搬して破碎するよりも効率的である場合には、一次仮置場に破碎機を設置することを検討する。破碎機の設置に当たっては、廃棄物処理法第9条の3の3の規定に基づく非常災害時の特例（市町村から災害廃棄物の処分を委託された者が、一般廃棄物処理施設（一般廃棄物の最終処分場であるものを除く。）を設置しようとする場合には、都道府県知事の許可を不要とし、届出で足りることとするもの。）を活用することで手続期間を短縮できる。ただし、本特例措置を適用するためには、処理施設が設置される市町村において、生活環境影響調査の結果を記載した書類の公衆への縦覧の対象となる一般廃棄物処理施設の種類、縦覧の場所及び期間等について定めた条例を平時からあらかじめ制定しておくことが望ましい。

出典：「仮置場の確保と配置計画に当たっての留意事項」（災害廃棄物対策指針 技術資料 技18-3）を元に一部加筆・修正

図表6-6 鉄板と碎石の利点・欠点

	鉄板	碎石
利点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運搬に時間を要するが、設置・撤去は早い</li> <li>・ 碎石と異なり、荷重を分散できるため、路盤の状態が悪くても設置可能（ただし、ある程度凸凹を均してから設置することが必要）</li> <li>・ 表面の清掃が容易</li> <li>・ 撤去後に廃棄物が残らない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自由に平面形状を作れる</li> <li>・ 災害時でも比較的容易に資材を確保することができる</li> </ul>
欠点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発災時は需要が増大し、供給が逼迫することでリース費用が上昇する</li> <li>・ 供給が逼迫すると確保に時間を要し、敷設までにぬかるみができる可能性がある</li> <li>・ 矩形のため、カーブ等の線形に追随しにくい</li> <li>・ 重ね合わせ部ができるため車両のパンクや作業員の怪我のリスクがある</li> <li>・ 収却時に損傷度に応じた修理費が必要となる場合がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 碎石が砕けると、隙間を伝って土が出てきて車両に泥が付着したり、晴れた日には乾いて粉塵が発生し、生活環境上支障が生じる可能性がある。そのため、路盤の状態によっては補修や複数回の再敷設が必要となる</li> <li>・ 撤去後の碎石の処分方法について検討することが必要であり、場合によっては最終処分費を要する</li> <li>・ 撤去時にすき取りによる廃棄物が増加する</li> </ul>

図表6-7 一次仮置場の配置計画（レイアウト）例



※上図は、面積が1ヘクタール程度の一次仮置場を想定したものであり、水害の場合で発災から1～2ヶ月程度経過した時点を想定したものである。

場内道路の幅員は災害廃棄物の搬入車両と搬出用の大型車両の通行も考慮し設定する。

面積が狭い場合は、品目を限定して複数の仮置場を運用してもよい。

可能であれば品目毎に1名の分別指導員を配置するのが望ましいが、配置が困難な場合は複数の品目を兼務したり、分別指導と荷下ろし補助を兼務させる等の対応が必要である。

地震災害の場合、上記に示した廃タイヤや布団、ソファー、置等は便乗ごみとして排出される可能性があるため、配置計画に当たってはこれらを除外することを含めた検討が必要であり、それは災害毎に必要であることに留意する。

レイアウトは、積み下ろしがしやすいように「重い物」から「軽い物」へ、又は「軽い物」から「重い物」となるように導線を考慮する。

出典：「仮置場の確保と配置計画に当たっての留意事項」（災害廃棄物対策指針 技術資料 技18-3）

### 【人員の確保】

- 仮置場の管理・運営のため、受付、車両の誘導及び災害廃棄物の荷下し補助、分別指導等を行うための職員を配置する。災害廃棄物の搬入量が多い時期には、少なくとも1つの仮置場で10名（管理及び分別指導1名、重機オペレーター等の特殊作業員2名、重機補助及び荷下ろし補助4名、交通誘導員2名、受付1名）以上の人数が必要となるため、庁内の人員だけで対応できない場合は、支援を要請して人員を確保する。支援が行われるまでは庁内の人員だけで仮置場の管理・運営を行う。
- 被災者の確認や搬入物が災害廃棄物であるかどうかの積荷チェック等、責任を伴う事項については本市の職員が対応に当たる。そのため少なくとも1名は本市の職員を配置する。

図表6-8 仮置場の管理・運営に関する人員確保の方法

名称	部署名	連絡先	備考
本市災害対策本部総務班	総務課	電話：0475-80-1117	府内他部局からの支援
茨城県常総市		要請を取りまとめる府内他部局へ連絡	災害時における相互応援に関する協定に基づく要請
静岡県牧之原市			
千葉県 県内全市町村及び千葉県	循環型社会推進課 資源循環企画室	電話：043-223-2645 FAX：043-221-3970	災害時における千葉県内市町村間の相互支援に関する基本協定に基づく要請
北茨城市ほか64市町村	浦安市危機管理課	消防防災課経由で連絡 電話：047-712-6897	廃棄物と環境を考える協議会加盟団体災害時相互応援協定に基づく要請
関東地方環境事務所		電話：048-600-0516	
山武市建設業災害対策協力会		電話：0475-77-8960	
一般社団法人千葉県産業資源循環協会 (千葉県循環型社会推進課経由で依頼)		千葉県循環型社会推進課 電話：043-223-2645	
D.Waste-Net(全国都市清掃会議・廃棄物関係団体) (千葉県・関東地方環境事務所経由で依頼)		FAX：043-221-3970	地震等大規模災害時における災害廃棄物の処理等に関する協定に基づく要請

## 【分別の徹底、一次仮置場の管理】

- 災害廃棄物の分別の徹底は極めて重要であることから、市民や災害ボランティアに対して分別の必要性と分別方法を初動時に周知・広報して協力を得る。ただし、仮置場の管理に災害ボランティアを活用することは避ける。
- 仮置場内の配置が分かりやすいよう、配置図をホームページ等で事前配布又は入口で配布する。
- 仮置場内の分別品目毎の看板を作成し、設置する。
- 仮置場での受付時間は9～16時（12～13時は昼休憩）までを基本とし、季節に応じて適切な時間を設定する。発災から2週間は休み（受入停止）を設定しないが、2週間後以降は、毎週水曜日は休みとして、仮置場の整理・整頓を行う。

図表6-9 仮置場の管理方法

災害廃棄物の積み上げ・スペースの確保・整理整頓	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 職員を配置して受付時の被災者の確認、積荷チェック、分別指導や荷下ろし補助、警備を行う。</li> <li>○ 廃棄物をショベルローダーやバックホウで5m程度まで積み上げる。</li> <li>○ 可燃系混合物は、必要に応じてバックホウのアタッチメント（アイアンクローなど）で粗破碎する。</li> </ul>
作業員の安全管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 作業員は、防塵マスク、ヘルメット、安全靴、手袋、長袖を着用する。</li> </ul>
仮置場の監視	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 市内の被災者以外からの災害廃棄物の搬入を防止するため、被災者の身分証や搬入申請書等を確認して搬入を認める。</li> <li>○ 生ごみや危険物等の不適切な廃棄物の搬入を防止するため、仮置場の入口に管理者を配置し、確認・説明を行う。</li> <li>○ 仮置場の受入時間を設定し、時間外は仮置場の入口を閉鎖する。</li> <li>○ 夜間の不適切な搬入や安全確認のため、パトロールを実施する。</li> </ul>
災害廃棄物の数量管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日々の搬入・搬出管理（計量と記録）を行う。停電や機器不足により台貫等による計量が困難な場合は、搬入・搬出台数や集積した災害廃棄物の面積・高さを把握することで、仮置場で管理している廃棄物量とその出入りを把握する。</li> </ul>
飛散防止策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 粉じんの飛散を防ぐため、散水を適宜実施する。</li> <li>○ ごみの飛散防止のため、覆い（ブルーシート等）をする。</li> <li>○ 仮置場の周辺への飛散防止のため、ネット・フェンス等を設置する。</li> <li>○ スレート瓦等の石綿含有廃棄物を極力割らないようにフレコンバッグに詰める。</li> </ul>
漏水対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 廃棄物からの漏水、凍結による漏水対策として、必要最低限の敷鉄板の敷設やブルーシート等で直接土壤に排出されないように考慮する。</li> <li>○ 排水勾配を確保した仮置場のかさ上げや仮排水構造物等敷設で仮置場内の排水を行うことが望ましい。</li> </ul>
火災防止対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 可燃物/可燃系混合物は、積み上げは高さ5m以下、災害廃棄物の山の設置面積を200m<sup>2</sup>以下、災害廃棄物の山と山との離間距離は2m以上とする。</li> </ul> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> </div> <p>出典：「仮置場の可燃性廃棄物の火災予防（第二報）」（震災対応ネットワーク（廃棄物・し尿等分野）、国立環境研究所）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 災害廃棄物の堆積物の温度測定や切り替えしによる放熱を行う。</li> </ul>
臭気・衛生対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 腐敗性廃棄物は長期保管を避け、優先的に焼却等の処理を行う。</li> <li>○ 殺虫剤等薬剤の散布を行う。</li> </ul>
環境モニタリング	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 必要に応じて仮置場周辺での大気、騒音・振動、悪臭、水質等の環境モニタリングを実施する。</li> </ul>

**【処理先への搬出】**

- 処理先へ搬出できるものは順次搬出して処理を行い、仮置場の空きスペースを確保する。

**【一次仮置場の原状復旧、返却】**

- 仮置場の復旧は、原状回復が基本であるが、土地所有者等との返却時のルール等がある場合は、それらに基づき実施し、土地所有者へ返還する。詳細な返却ルールが決まっていない場合は、返却前に土地所有者等と協議し、地面の表面に残った残留物の除去や土壤の漉き取り・客土、必要に応じた土壤分析等を行う。

**【二次仮置場の設置・運営・管理】**

- 災害廃棄物を処理処分先・再資源化先に搬出するまでの中間処理が一次仮置場において完結しない場合は、さらに破碎、細選別、焼却等の中間処理を行うとともに、処理後物を一時的に集積、保管するために二次仮置場を設置する。
- 二次仮置場では高度な中間処理が必要となることから、二次仮置場の設置・管理・運営は、技術を有する事業者に業務委託する。

**(2) 平時**

- 被害想定により推計した災害廃棄物の発生量を基に、一次仮置場の必要面積を推計すると、必要な一次仮置場は「大正関東地震」の場合で約0.7ヘクタール、「明治三陸型地震で津波（10m津波を想定）が三重会合点まで南下した場合」には約12.3ヘクタールとなる。一次仮置場の必要面積の算定方法は巻末資料を参照のこと。
- 仮置場の必要面積を考慮し、市内で偏りが生じないよう、可能な限り地域毎に仮置場の候補地を選定しておく。なお、二次仮置場については、一次仮置場よりも広い面積の候補地を選定しておく。仮置場の候補地の選定に当たってのチェック項目は図表6-10に示すとおりである。
- 選定した仮置場の候補地はリストとして整理しておく。

図表6-10 仮置場の候補地の選定に当たってのチェック項目

項目	条件	理由
所有者	<input type="radio"/> 公有地（市有地、県有地、国有地）が望ましい。 <input type="radio"/> 地域住民との関係性が良好である。 <input type="radio"/> （民有地の場合）地権者の数が少ない。	<input type="radio"/> 災害時には迅速な仮置場の確保が必要であるため。
面積	<input type="radio"/> 一次仮置場 <input type="radio"/> 広いほどよい。（3,000m <sup>2</sup> は必要）	<input type="radio"/> 適正な分別のため。
	<input type="radio"/> 二次仮置場 <input type="radio"/> 広いほどよい。（10ha以上が好適）	<input type="radio"/> 仮設処理施設等を設置する場合があるため。
平時の土地利用	<input type="radio"/> 農地、校庭、海水浴場等は避けたほうがよい。	<input type="radio"/> 原状復旧の負担が大きくなるため。
他用途での利用	<input type="radio"/> 応急仮設住宅、避難場所、ヘリコプター発着場等に指定されていないほうがよい。	<input type="radio"/> 当該機能として利用されている時期は、仮置場として利用できないため。
望ましいインフラ（設備）	<input type="radio"/> 使用水、飲料水を確保できること。（貯水槽で可）	<input type="radio"/> 火災が発生した場合の対応のため。 <input type="radio"/> 粉じん対策、夏場における熱中症対策のため。
	<input type="radio"/> 電力が確保できること。（発電設備による対応も可）	<input type="radio"/> 仮設処理施設等の電力確保のため。
土地利用規制	<input type="radio"/> 諸法令（自然公園法、文化財保護法、土壤汚染対策法等）による土地利用の規制がない。	<input type="radio"/> 手続、確認に時間を要するため。
土地基盤の状況	<input type="radio"/> 舗装されているほうがよい。 <input type="radio"/> 水はけの悪い場所は避けたほうがよい。	<input type="radio"/> 土壤汚染、ぬかるみ等の防止のため。
	<input type="radio"/> 地盤が硬いほうがよい。 <input type="radio"/> 暗渠排水管が存在しないほうがよい。 <input type="radio"/> 河川敷は避けたほうがよい。	<input type="radio"/> 地盤沈下が発生しやすいため。 <input type="radio"/> 災害廃棄物の重量で暗渠排水管を破損する可能性があるため。 <input type="radio"/> 集中豪雨や台風等増水の影響を避けるため。 <input type="radio"/> 災害廃棄物に触れた水が河川等へ流出することを防ぐため。
地形・地勢	<input type="radio"/> 平坦な土地がよい。起伏が少ない土地がよい。	<input type="radio"/> 廃棄物の崩落を防ぐため。 <input type="radio"/> 車両の切り返し、仮置場のレイアウトの変更が難しいため。
	<input type="radio"/> 敷地内に障害物（構造物や樹木等）が少ないほうがよい。	<input type="radio"/> 迅速な仮置場の整備のため。
土地の形状	<input type="radio"/> 変則形状でないほうがよい。	<input type="radio"/> 仮置場の配置計画が難しいため。
道路状況	<input type="radio"/> 前面道路の交通量は少ない方がよい。	<input type="radio"/> 災害廃棄物の搬入・搬出は交通渋滞を引き起こすことが多く、渋滞による影響がその他の方面に及ばないようにするため。
	<input type="radio"/> 前面道路は幅員6.0m以上がよい。二車線以上がよい。	<input type="radio"/> 大型車両の相互通行のため。

項目	条件	理由
搬入・搬出ルート	○ 車両の出入口を確保できること。	○ 災害廃棄物の搬入・搬出のため。
	○ 搬入・搬出の間口は9.0m以上がよい。	○ 大型車両の交互通行のため。
輸送ルート	○ 高速道路のインターチェンジ、緊急輸送道路、鉄道貨物駅、港湾(積出基地)に近いほうがよい。	○ 広域輸送を行う際に効率的に災害廃棄物を輸送するため。
周辺環境	○ 住宅密集地でないこと、病院、福祉施設、学校に隣接していないほうがよい。 ○ 企業活動や農林水産業、住民の生業の妨げにならない場所がよい。	○ 粉じん、騒音、振動等による住民生活への影響を防止するため。
	○ 高速道路や鉄道路線に近接していないほうがよい。	○ 火災発生時の高速道路や鉄道への影響を防ぐため。
被害の有無	○ 各種災害(津波、洪水、液状化、土石流等)の被災エリアでないほうがよい。	○ 二次災害の発生を防ぐため。
その他	○ 道路啓開の優先順位を考慮する。	○ 早期に復旧される運搬ルートを活用するため。

出典：「仮置場の確保と配置計画に当たっての留意事項」(災害廃棄物対策指針 技術資料 技18-3)に基づき作成

## 第5節 処理・処分

災害廃棄物は、種類や性状に応じて破碎・選別や焼却等の中間処理を行い、再生利用、最終処分を行う。可能な限り既存の廃棄物処理施設で処理し、本市内で処理しきれない場合には、県内市町村の支援による処理及び県内の事業者による処理を行う。

処理方法や処理業務の発注については、生活環境に支障が生じないよう廃棄物処理法等の関連法令に従い、適正に処理することを基本とし、再生利用の推進と最終処分量の削減、処理のスピード及び費用の点を含めて総合的に検討して決定する。

### (1) 災害時

#### 【処理・処分】

- 選別・破碎や焼却等の中間処理を行い、再生利用、最終処分を行う。中間処理、最終処分は可能な限り既存の処理施設で行う。公共の処理施設で処理できないものについては、民間事業者に処理を委託する。
- 混合廃棄物や廃棄物を含んだ土砂等は、必要に応じて仮設処理施設を設置して、選別・破碎等の中間処理を行った後、必要に応じて試験焼却等を行い、既存の処理施設で処理を行う。仮設処理施設及び二次仮置場設置に係る仕様作成・設計・積算を行い、処理業務を発注する。

#### 【再生利用】

- セメント原燃料や建設土木資材、バイオマスボイラー<sup>\*</sup>用燃料等の再生利用先を確保し、その受入条件に適合するように災害廃棄物を前処理する。なお、処理した資材が活用されるまで仮置きするための保管場所を仮置場内に確保する。

#### ※バイオマスボイラー

…主に木くずを燃料としたボイラーである。熱や蒸気を利用する工場や発電のために設置されている。災害廃棄物処理においても木くずの利用先として重要である。

### (2) 平時

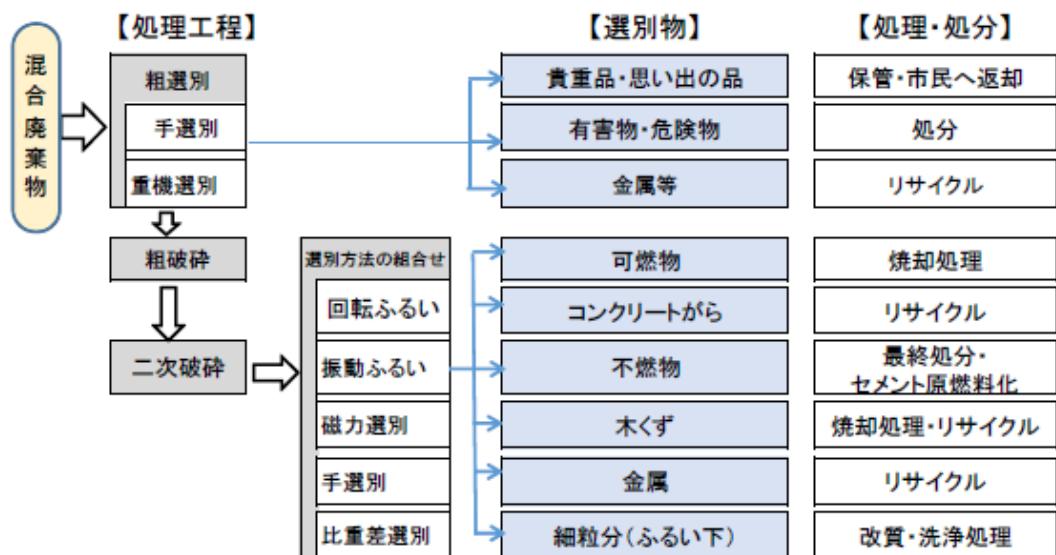
#### 【廃棄物の種類毎の処理方法の検討】

- 可能な限り再生利用することを基本とし、廃棄物(選別後)の種類毎に処理方法を検討しておく。
- 焼却処理、最終処分は可能な限り既存の処理施設で行う。公共の処理施設で処理できないものについては、民間事業者に処理を委託したり、県を通して県内又は県外での処理を要請する。

## 【参考1】混合廃棄物の処理（例）

- 混合廃棄物は、可燃物、不燃物、細かいコンクリート片、土砂、金属等を含むため、できるだけ選別することで再生利用を図る。また、危険物や思い出の品等を含むこともあるため、これらに留意して処理を行う。
- 図表6-1-1のように重機による選別・手選別の他、複数の破碎・選別工程で処理する。混合廃棄物の性状に応じて適切な選別方法を選択する。

図表6-1-1 混合廃棄物の処理（例）



出典：「東日本大震災により発生した被災3県（岩手県・宮城県・福島県）における災害廃棄物等の処理の記録」（平成26年9月、東北地方環境事務所）



仮設施設内の手選別工程  
(宮城県岩沼市、平成25年2月)

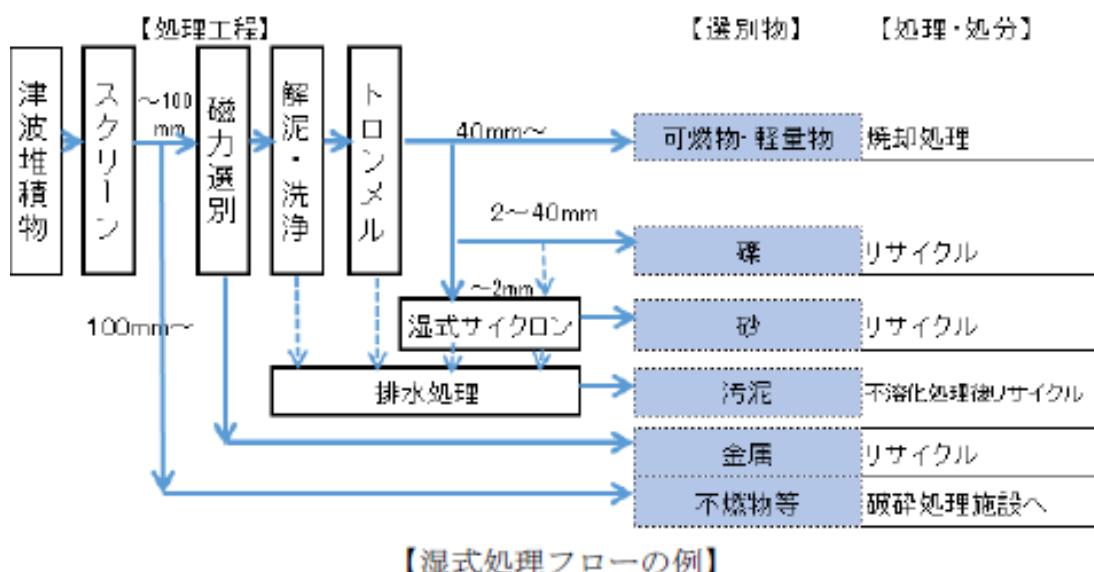
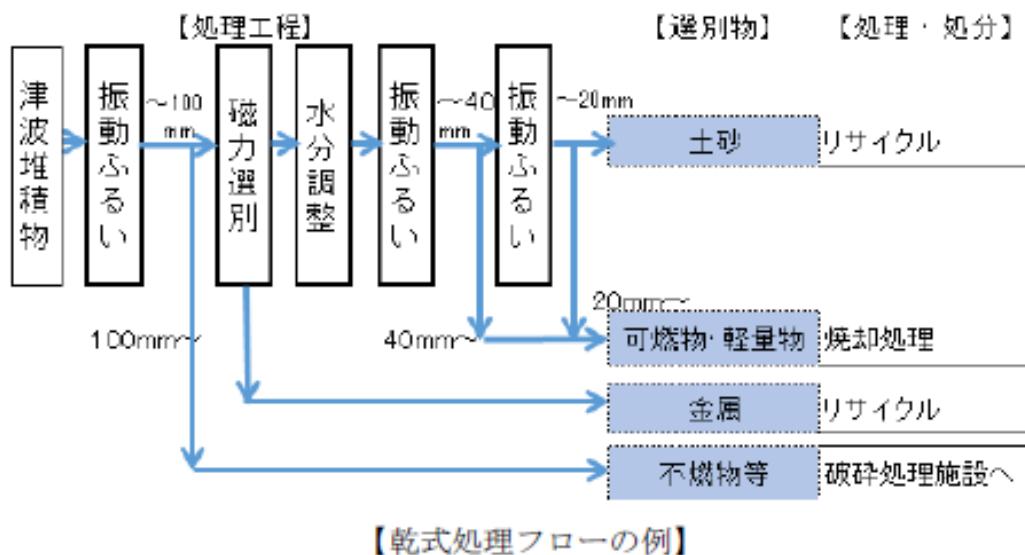


可燃物の貯留ヤード  
(宮城県石巻市、平成25年6月)

## 【参考2】多量の土砂や汚泥を含む災害廃棄物に関して（津波堆積物の例を参考とした処理）

- 大規模な土砂崩れなどで発生する、多量の土砂や汚泥を含む災害廃棄物処理については、津波堆積物の処理に関する例を参考とする。
- 津波堆積物は、土砂・泥状物とともに陸上に存在していた様々なものを巻き込んだ性状である。金属類・可燃物等を選別し、ふるいによる粒度調整を行う乾式処理が基本であるが、処理前に津波堆積物の重金属等を分析し、汚染が認められたものは湿式洗浄を加えた湿式処理を行う。含水率が高い場合は、改質剤を添加する等して主にふるいによる粒度選別を行い、建設土木資材として再生利用を図る。

図表6-12 津波堆積物の処理（例）



出典：「東日本大震災により発生した被災3県（岩手県・宮城県・福島県）における災害廃棄物等の処理の記録」（平成26年9月、東北地方環境事務所）

図表6-13 廃棄物（選別後）の種類毎の処理方法の考え方

種類	処理方法の考え方
木くず	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 破碎処理や焼却処理をする。</li> <li>○ 家屋の柱や倒木は、リサイクル材としての価値が高いため、極力リサイクルに努める。</li> <li>○ 合板くずや小片木くずは、サーマル原料等により極力リサイクルに努める。</li> <li>○ 木くずを破碎すると、発酵して品質が劣化するため、長期間保存ができない。破碎しない（嵩張る）状態で保管するためのストックヤードの確保が必要である。</li> <li>○ 再生利用先の受入条件の調整が必要である。</li> <li>○ 木くずは、水に濡れると腐敗による悪臭が発生し、リサイクルが困難となる場合があるため、保管の方法や期間には注意が必要である。</li> </ul>
コンクリートがら等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 破碎処理を行う。</li> <li>○ 極力土木資材としてのリサイクルに努める。</li> <li>○ コンクリートがらは路盤材等としてリサイクルできるが、路盤材の需要を上回る量のコンクリートがらを処理すると、路盤材としてすぐに利用できない。路盤材としてすぐに利用できない場合は、コンクリートがらを仮置場で保管する。</li> <li>○ ガラスくず：極力土木資材としてのリサイクルに努める。リサイクルできないものは埋立処分する。</li> <li>○ 陶磁器くず：極力土木資材としてのリサイクルに努める。リサイクルできないものは埋立処分する。</li> <li>○ スレート板：石綿が含有されているおそれがあるため、シート掛け等して石綿が飛散しないように保管する。リサイクルできないものは埋立処分する。</li> <li>○ 土砂混じりがれき：ふるい選別等により土木資材、セメント原料としてのリサイクルに努める。</li> </ul>
金属くず	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 有価での売却を基本とするが、選別が困難である等によりリサイクルできないものは埋立処分する。</li> </ul>
可燃物	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 布団・カーペット類：切断後、焼却処理を行う。水分を含んだ布団は、破碎が難しく燃えにくいため、乾燥等を行う必要がある。</li> <li>○ プラスチック類：極力セメント原燃料等にリサイクルするなどサーマルリサイクルし、リサイクルできないものは焼却処理する。</li> </ul>
不燃物	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 破碎選別、磁力選別、手選別等により選別の精度を向上し、極力リサイクルに努め、残さは埋立処分する。</li> <li>○ 瓦：屋根瓦は、高い透水性があり、砂利等へリサイクルできる（色などで材質がことなるためリサイクルを検討する場合には、瓦の分類に注意すること）。処分費用及び環境負荷を低減できることから、極力リサイクルに努める。リサイクルできないものは埋立処分する。</li> </ul>
腐敗性廃棄物	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 水害で発生する腐敗性廃棄物は、汚水を含み重量が増加する。水に濡れると腐敗による悪臭が発生するため、優先的に処理を行う。</li> <li>○ 罂：仮置場から優先的に搬出後に切断等を行い、セメント原燃料等にリサイクルする。リサイクルできないものは焼却処理する。水に浸かった罂は、発酵し火災が発生するおそれがあるため、仮置場内での保管に注意し、優先的に搬出する。</li> <li>○ 食品：食品・飼肥料工場等から発生する原料及び製品等は、所有者が優先的に焼却等の処理を行う。</li> </ul>
土砂 津波堆積物	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 津波堆積物：ふるい選別等により土木資材、セメント原料としてのリサイクルに努める。</li> </ul>

種類	処理方法の考え方
廃家電製品	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ エアコン、テレビ、冷蔵庫・冷凍庫、洗濯機・衣類乾燥機の4品目は、家電リサイクル法に従い、引き取り業者へ引き渡すことを原則とする。4品目以外の電気製品については、破碎して金属等のリサイクルに努める。</li> <li>○ 水害で発生する泥が付着した廃家電製品は、リサイクルが困難となる場合があるので、洗浄等することでリサイクルに努める。</li> </ul>
廃自動車等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自動車は自動車リサイクル法に従い、所有者が引き取り業者へ引き渡すことを原則とする。</li> <li>○ 水害により車内に土砂が堆積した場合は、土砂を取り除いてから搬出するように努める。</li> </ul>
廃船舶	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 所有者が専門の事業者に依頼し、極力リサイクルに努める。</li> </ul>
有害廃棄物	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 農薬・化学薬品、石綿含有廃棄物、感染性廃棄物等は分別して保管し、専門の事業者で処理を行う。</li> <li>○ PCB廃棄物は、PCB特別措置法に従い、保管事業者が適正に処理を行う。</li> </ul>
その他処理が困難な廃棄物等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 危険物：消火器、ガスボンベ類、油類は、分別して保管し、専門の事業者で処理を行う。</li> <li>○ マットレス・ソファ類：切断後、金属の回収、焼却処理を行う。</li> <li>○ 石膏ボード：汚れがないこと、板状であること（製造番号等が識別できること）が受入要件であり、仮置場において雨等で濡れないよう保管して、石膏ボード原料とする。板状でないものや、汚れ・水濡れ等のものは埋立処分する。</li> <li>○ 太陽光発電設備（家庭用）：感電に注意して取扱う。金属等のリサイクルに努める。</li> <li>○ 漁網：漁網には錘に鉛等が含まれていることから、分別して破碎・焼却処理や埋立処分を行う。</li> <li>○ 混合廃棄物：可燃物、不燃物、細かいコンクリート片、土砂、金属等を含むため、できるだけ選別処理することでリサイクルに努める。</li> </ul>

#### 【既存処理施設における災害廃棄物の処理可能量の推計】

- 既存処理施設（公共）の災害廃棄物の処理可能量は、図表6-14に示すとおりである。なお、災害廃棄物の処理可能量の推計方法については巻末資料を参照のこと。

図表6-14 既存処理施設の災害廃棄物の処理可能量又は残余容量

区分	施設名称	処理可能量又は残余容量
焼却施設	東金市外三市町環境クリーンセンター（焼却施設）	4,381トン/年
	山武郡市環境衛生組合ごみ焼却施設	13,000トン/年
粗大ごみ処理施設	東金市外三市町環境クリーンセンター（粗大ごみ処理施設）	171トン/年
	山武郡市環境衛生組合リサイクルプラザ	3,744トン/年
最終処分場	グリーンオアシス大網（大網一般廃棄物最終処分場）	55,362m <sup>3</sup>
	山武郡市環境衛生組合一般廃棄物最終処分場	13,000m <sup>3</sup>

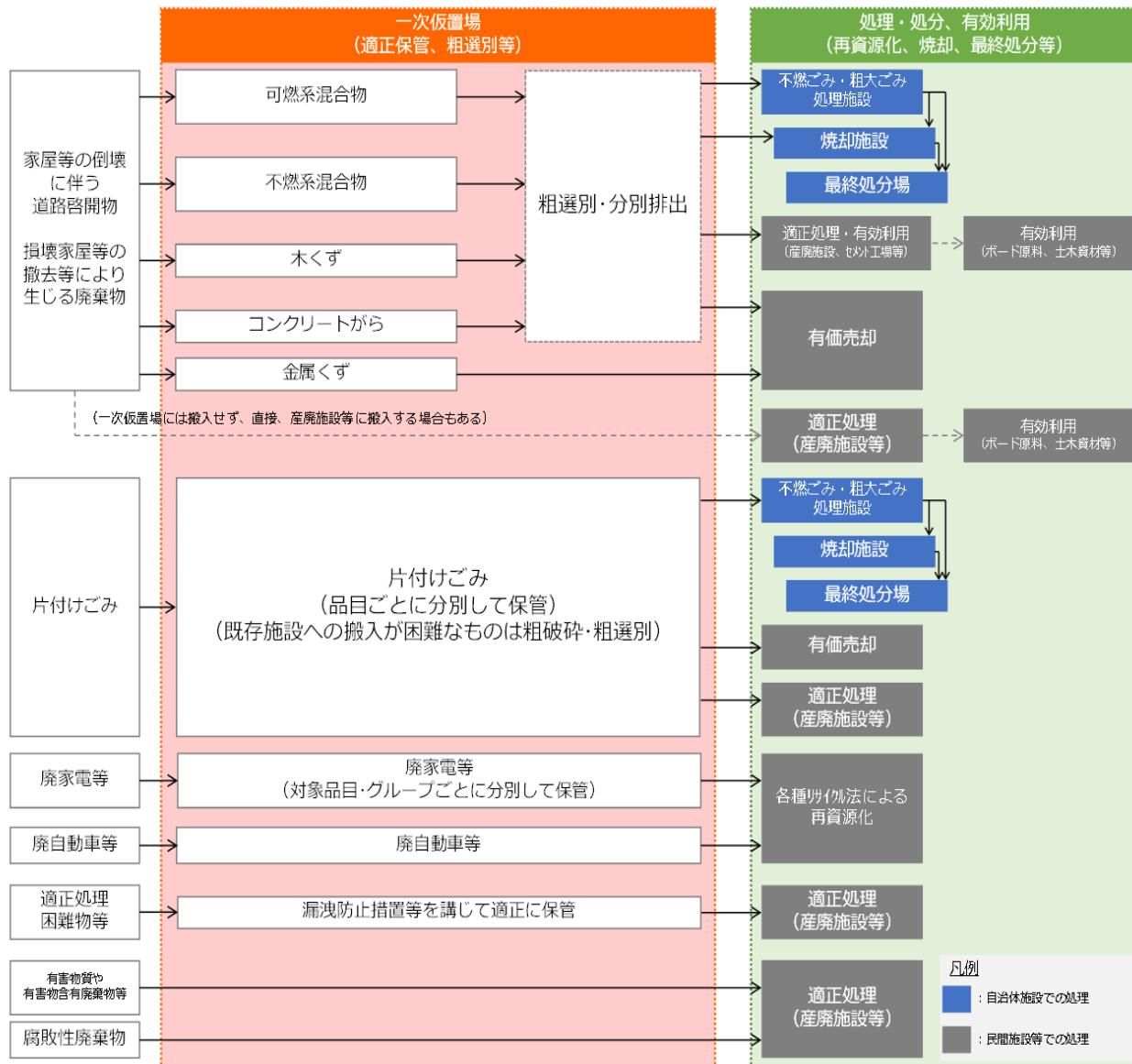
※焼却施設及び粗大ごみ処理施設は処理可能量を、最終処分場は残余容量を示す。

### 【処理フローの検討】

- 上記で検討した処理方法に基づき、処理フローを作成する。

図表6-15 災害廃棄物の処理フロー

#### 二次仮置場を設置しない場合の概略処理フロー



## 二次仮置場を設置する場合の概略処理フロー



## 第6節 適正処理が困難な廃棄物等への対応

生活環境の保全及び作業環境安全の観点から、適正処理が困難な廃棄物は他の災害廃棄物と分けて収集し、専門機関、専門処理業者へ委託して適正に処理する。また、発災後に環境省から発出される事務連絡等を参考にして適切に対応する。

図表6-16(1) 適正処理が困難な廃棄物の処理方法の例

項目	想定される処理ルート・留意点等
PCB	<p><u>処理ルート</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高濃度 PCB 廃棄物は、中間貯蔵・環境安全事業(株) (JESCO) へ搬送・処理を行う。</li> <li>○ 低濃度 PCB 廃棄物（低濃度 PCB 含有廃棄物、微量 PCB 汚染廃電気機器等）は、廃棄物の種類に応じて、無害化処理認定事業者又は県知事が許可する産業廃棄物処理業者と契約して搬送・処理を行う。 ※詳細は「ポリ塩化ビフェニル(PCB) 使用製品及び PCB 廃棄物の期限内処理に向けて」(環境省・経済産業省)を参考とする。</li> </ul> <p><u>保管における留意点</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ PCB 含有の有無が確認できない場合を含め、回収後に他の廃棄物が混入しないよう区分する。</li> <li>○ 屋内保管、密閉容器内保管又はビニールシートで覆う等、飛散・流失・地下浸透しないような対策を施して保管する。</li> <li>○ 地震等で転倒しないように配慮する。</li> </ul>
石綿含有廃棄物等	<p><u>処理ルート</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 回収した石綿含有廃棄物等は、プラスチックバッグやフレコンバッグで、二重梱包や固形化により飛散防止措置を行ったうえで、管理型最終処分場において埋立処分、あるいは溶融による無害化処理を行う。</li> </ul> <p><u>取り扱いにおける留意点</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 廃石綿等については、特別管理産業廃棄物処分業者に引き渡すに当たり、固形化、薬剤による安定化後、耐水材料による二重梱包を行う。</li> </ul>
石膏ボード	<p><u>処理ルート</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 管理型最終処分場にて最終処分する。</li> <li>○ 中間処理により石膏粉と紙くずに分離し、石膏粉を再資源化、紙くずを焼却する。</li> </ul> <p><u>留意点</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 建築物に使用されている石膏ボードの中には、石綿、砒素、カドミウムといった有害物質が含まれる製品が一部存在するため、発覚した際は適切に処理・処分し、必要に応じて環境モニタリングを実施する。</li> </ul>

図表6-16(2) 適正処理が困難な廃棄物の処理方法の例

項目	想定される処理ルート・留意点等
ガスボンベ	<p><u>処理ルート</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 容器の記載から、ボンベの所有者が確認できる場合は、そのガス会社に連絡して引き取ってもらう。</li> <li>○ 文字が消える等所有者が確認できない場合は、一般ガスであれば千葉県高圧ガス流通保安協会（千葉市中央区中央港1-13-1、TEL 043-246-0027）へ、LPGガスについては一般社団法人千葉県LPGガス協会（千葉市中央区中央港1-13-1、TEL:043-246-1725）へ連絡し回収方法を確認する。</li> </ul> <p><u>留意点</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 取扱いにおいて、ボンベの破裂に注意する。</li> </ul>
消火器	<p><u>処理ルート</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 一般社団法人日本消火器工業会「消火器回収システム」加盟販売店における消火器取扱窓口に処理業者を聴取し、引き渡すことでリサイクルを行う。</li> </ul> <p>【市内取扱窓口】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 特定窓口：株式会社千歳防災社 住所：山武市富口674番地 電話：0475-82-2804</li> <li>• 指定取引場所：日本ドライケミカル株式会社 製造本部千葉製造部 住所：山武市松尾町借毛本郷625番地1 電話：0479-86-3321（代）</li> </ul> <p><u>留意点</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 問合せや特定窓口の照会に、(株)消火器リサイクル推進センターが対応してもらえるよう、平時より協議・調整しておく。</li> <li>○ 被災後に発生する消火器のうち、一時的に泥中に埋まっていた消火器は使用時に内圧が詰まり破裂の危険性がある。</li> <li>○ エアゾール式消火具や外国製消火器は消火器回収システムの対象外となるため、スプレー缶等と同様に処理する。</li> </ul>
肥料	<p><u>処理ルート</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 農家へ提供する。</li> <li>○ セメント工場で焼却焼成する。</li> <li>○ 高含水津波堆積物の改質助材として活用する。</li> <li>○ 管理型最終処分場で埋立処分する。</li> <li>○ コンクリート固化等の後、最終処分する。</li> </ul> <p><u>保管における留意点</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 性質上、窒素、リン、カリウムの含有が多く、溶出防止策として遮水性フレコンバッグ等に入れて保管等を行う。</li> </ul>

廃棄	<p><u>処理ルート</u></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○ 民間リサイクル施設で再生プラスチック燃料（RPF）として再生する。</li><li>○ 選別後に可燃物として処理する。</li><li>○ 発電燃料へリサイクルする。</li><li>○ セメント原燃料とする。</li></ul> <p><u>保管における留意点</u></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○ 重ねて積み上げることで、発火することがある。</li><li>○ 破碎・選別や積み上げが困難であることから、仮置場を広く占有するため、可能な限り十分なスペースを確保する。</li></ul>
----	---

図表6-16(3) 適正処理が困難な廃棄物の処理方法の例

項目	想定される処理ルート・留意点等
水産系廃棄物	<p><u>処理ルート</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 埋立</li> <li>○ 埋設保管</li> <li>○ 焼却</li> </ul> <p><u>保管における留意点</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 仮置場で腐敗することにより、ハエや蚊・ネズミが大量発生するため、災害時の廃棄物の山に殺虫剤・殺鼠剤や消石灰を散布する等の対策が必要である。</li> <li>○ 悪臭防止及び雨水による発酵を抑制するためにキャッピングシートを設置する場合がある。</li> <li>○ 埋設保管は、特に悪臭防止対策を重視し、プラスチック類等のこん包物を選別除去後、「腐敗した魚介類の悪臭防止対策について（公益社団法人におい・かおり環境協会）」等を参考に実施する。</li> <li>○ 水産系廃棄物から大量の汚水が発生し、浸出水処理施設の処理能力を大幅に超える場合もあるため、埋立処理に当たっては、浸出水処理設備の能力を勘案する必要がある。</li> </ul>
感染性廃棄物	<p><u>処理ルート</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 焼却</li> <li>○ 溶融</li> <li>○ 高圧蒸気滅菌又は乾熱滅菌</li> <li>○ 肝炎ウイルスに有効な加熱又は薬剤による消毒</li> <li>○ 他法令に規定する感染性病原体に有効な方法による消毒</li> </ul> <p><u>収集運搬における留意点</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「感染性廃棄物」等と記されている容器、又は、バイオハザードマークのついた容器をそのまま保管場所へ運搬する（容器を破損しないような方法で収集運搬する）。</li> <li>○ 注射針、点滴用の針、メス等の鋭利なもののが取扱いについては、手等を傷つけないように注意し、堅牢な容器、耐久性のあるプラスチック袋、フレコンバッグ等の丈夫な運搬容器に入れて運搬する。</li> </ul> <p><u>保管における留意点</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 保管場所には、感染性廃棄物の保管場所である旨表示する。</li> <li>○ 屋根のある建物内で保管するか、屋内の保管場所が確保できない場合には、防水性のビニールシートで全体を覆う（底面を含む）等、直射日光を避け、風雨にさらされず、感染性廃棄物が飛散、流出、地下浸透、腐食しないよう必要な対策を講じる。</li> <li>○ 他の廃棄物等が混入するおそれがないよう、仕切りを設ける等の必要な措置を講じる。</li> <li>○ 感染性廃棄物は、焼却等の滅菌できる方法で処理することとなっているため、当該感染性廃棄物の適正な処理が可能となるまで保管する。</li> </ul>

## 第7節 損壊家屋等の撤去等

### (1) 災害時

#### 【通行の支障や倒壊の危険がある建物等の撤去】

- 損壊家屋等は私有財産であるため、その撤去・処理・処分は原則として所有者が実施する。しかし、通行上の支障や現地調査による応急危険度判定の結果、倒壊の危険がある建物については、所有者の意思を確認した上で、適切な対応を行うものとする。なお、公共施設や大企業の建物の撤去についてはそれぞれの管理者の責任で実施する。

#### 【体制の構築】

- 損壊家屋の撤去等には、設計・積算・現場管理等の知識が必要となることから、土木・建築職を含めた体制を構築する。
- 損壊家屋等の撤去等は、事業者に業務委託する。

#### 【申請方法の広報、申請窓口の設置】

- 損壊家屋の撤去等に係る申請方法を被災者に広報し、可能であればり災証明の発行拠点に損壊家屋等の撤去等申請窓口を設置する。

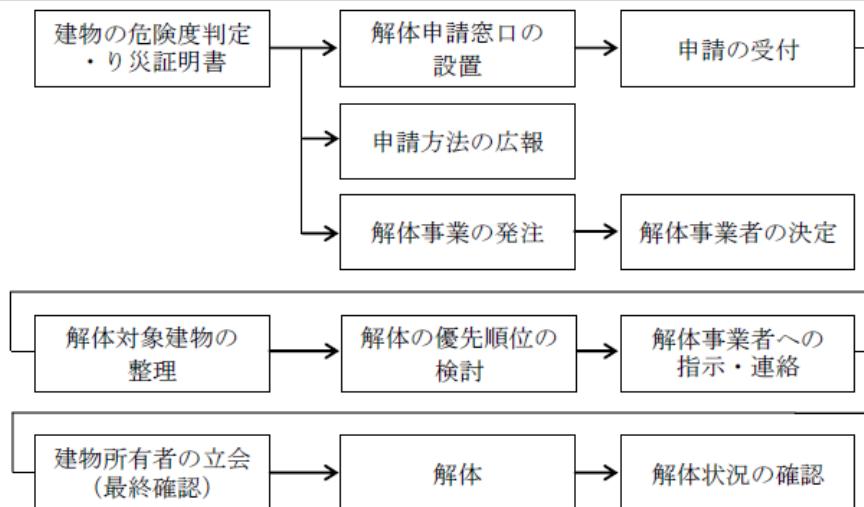
#### 【損壊家屋等の解体】

- 災害の状況に応じて示される國の方針に基づき、損壊家屋の撤去又は解体を行う。過去に阪神・淡路大震災や東日本大震災、平成28年熊本地震、平成30年7月豪雨、令和元年台風第15号・第19号において、國が特例の財政措置を講じ、半壊以上の建物の解体についても国庫補助の対象となった事例もある。
- 損壊家屋の撤去等の実施に当たっては、建物所有者の立会いを原則とする。
- 建物内に残存する貴重品や思い出の品等については、撤去等の前に所有者に引き渡す。
- 台帳等を利用して石綿の使用情報や危険物の混入状況等について、損壊家屋等の所有者等から情報を集約し、損壊家屋等の解体や災害廃棄物の撤去を行う関係者へ周知して、関係者へのばく露を防ぐ。
- 石綿については、大気汚染防止法、災害時における石綿飛散防止に係る取扱いマニュアル（改定版）に基づき、適正に取扱うよう解体業者に対し指導を徹底する。
- 高圧ガスボンベ（LPガス等）、フロン類が使用されている機器、太陽光発電設備、大型蓄電池等についても、損壊家屋等の撤去又は解体や災害廃棄物の撤去を行う関係者へ注意を促す。

### (2) 平時

- 財政部局や建設部局等と連携して、り災証明、解体申請、解体事業登録、解体状況の確認等についての手順や手続きを整理するとともに、庁内の連携体制を整える。
- 損壊家屋等の撤去等の実施に当たっては、損壊家屋等の権利関係や正確な延べ床面積の把握等が必要となるため、り災証明書の発行業務と連携した体制を検討しておく。
- 石綿の使用状況について、公共施設の管理者等から情報を収集する。

図表6-17 損壊家屋等の撤去（必要に応じて解体）を行う場合の手順例



出典：「市町村向け災害廃棄物処理行政事務の手引き」（平成30年3月、環境省東北地方環境事務所・関東地方環境事務所）

図表6-18 石綿の飛散防止に関する注意点

木造	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 結露の防止等の目的で吹付け材を使用している場合があるため、木造建築物においては、「浴室」「台所」及び「煙突回り」を確認する。</li> <li>○ 非飛散性であるが、屋根・天井・壁の成型板も確認する。</li> </ul>
鉄骨造	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 耐火被覆の確認を行う。</li> <li>○ 書面検査で石綿の不使用が確認されない場合、耐火被覆が施工されていれば鉄骨全面に施工されている可能性が高いので、棒等を使用して安全に配慮して試料採取・分析確認を行う。</li> </ul>
鉄骨・鉄筋コンクリート造	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 機械室（エレベータ含む）、ボイラー室、空調設備、電気室等は、断熱・吸音の目的で、石綿含有吹付けの施工の可能性が高いので確認する。</li> <li>○ 外壁裏打ち、層間塞ぎ、パイプシャフト、エレベータシャフト、最上階天井裏等も注意する。</li> </ul>
建築設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 空調機・温水等の配管、煙突等の保温材・ライニング等を可能な範囲で把握する。</li> </ul>

出典：「災害廃棄物対策指針」より作成



石綿含有吹付けロックウール



石綿含有スレート波板（屋根・外壁）

出典：「目で見るアスベスト建材（第2版）」（平成20年3月、国土交通省）

## 第8節 処理業務の進捗管理

### (1) 災害時

#### 【計量等の記録】

- 災害廃棄物の仮置場への搬入・搬出量を車両の台数や計量器で計量し、記録する。また、解体家屋数、処分量等を把握し、進捗管理を行う。（図表6-19）
- 災害廃棄物を仮置場から搬出する際は、管理伝票を用いて処理量、処理先、処理方法等を把握する。

図表6-19 記録の種類

仮置場の搬入・搬出における記録	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 搬入・搬出重量及び車両台数、種類別・積載量、発生元の地域、搬出先等</li> <li>○ 車両の写真、日毎の作業員数・施工状況写真</li> <li>○ 災害廃棄物の集積面積・高さによる推計量の変化</li> </ul>
処理における記録	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 種類別処理方法別（焼却、リサイクル、最終処分）の処理前・処理後の数量</li> </ul>

#### 【処理の進捗管理】

- 処理の進捗管理に係る人員が不足する場合は、事業者への進捗管理業務の委託を検討する。県は、本市から報告を受け、災害廃棄物処理の進捗状況を把握する。

#### 【災害報告書の作成】

- 災害廃棄物の処理と並行して、「災害関係業務事務処理マニュアル」（令和3年2月改訂）に基づき、災害廃棄物処理に係る国庫補助（災害等廃棄物処理事業費補助金、廃棄物処理施設災害復旧事業）申請の準備を行う。
- 補助金の事務を円滑に進めるために、災害廃棄物の数量や仮置場の写真、作業日報（作業日、作業者数、重機種類・台数、運搬車両種類・台数等を記載）、事業費算出の明細等を整理する。
- 災害廃棄物処理に係る国庫補助の事務について必要な知識を有する職員を配置する。

### (2) 平時

- 災害廃棄物処理に係る国庫補助申請で必要となる報告書の作成等について、必要な知識の習得に努める。

## 第7章 教育訓練

### 第1節 職員への教育訓練

本計画が災害時に有効に活用されるよう記載内容を職員に周知する。

また、災害時に速やかに行動できるよう、教育・訓練等を定期的に実施したり、国や県が実施する教育訓練に参加することで、災害対応力の向上を図る。なお、教育訓練によって得られた課題は、本計画の見直しに活用する。

#### 【訓練、演習の方法（例）】

- 災害廃棄物処理計画の周知、読み合わせ
- セミナー、講演会、勉強会（過去の災害廃棄物処理の経験に学ぶ教訓、仮置場の管理に係る実務、災害廃棄物の処理方法、災害報告書作成・補助金交付申請事務に係る実務、災害廃棄物処理に係る関連法令等）
- 情報伝達訓練
- 図上演習、机上演習

### 第2節 経験の継承

災害における災害廃棄物処理の初動期から復旧・復興期までの行動を記録し、経験を継承することにより、今後の災害に備え、災害時の円滑かつ迅速な対応に活かす。

## 第8章 災害廃棄物対策の推進・計画の進捗管理

平時から災害廃棄物処理に係る備えを進め、県・他市町村・事業者・市民の連携により災害廃棄物の適正かつ円滑・迅速な処理を通じて早期の復旧・復興につなげるとともに、環境負荷の低減、経済的な処理を実現する。

### (1) 災害廃棄物処理計画による実行性の向上

- 本計画を通じて府内及び県、他市町村、事業者、市民とともに災害への備えの重要性を共有し、それぞれの行動につなげよう働きかける。

### (2) 情報共有と教育・訓練の実施

- これまでの災害廃棄物処理の経験を継承し、経験を活かしていくことで、今後の災害廃棄物処理に係る対応力の向上につなげる。
- 県、他市町村、事業者等の関係者との情報共有・コミュニケーションを図り連携を強化するとともに、目的に応じた効果的な教育・訓練を定期的に実施する。

### (3) 進捗管理・評価による課題の抽出

- 災害廃棄物処理に備えた体制を構築していくため、県や事業者その他の関係機関・関係団体との連絡を密にする。教育・訓練履修者の数や仮置場の候補地の選定等の進捗状況を毎年確認するとともに、県等と課題を共有し、評価・検討を通じて対応能力の向上を図る。
- 災害時の初動期から復旧・復興期までの行動を記録し、災害廃棄物処理における課題の抽出を行う。

### (4) 災害廃棄物処理計画の見直し

- 本計画の実行性を高めるため、下記に該当する場合は、計画の見直しの必要性を検討し、適宜改定を行う。

#### 【本計画の見直しを行う場合】

- 地域防災計画や被害想定が修正された場合
- 関係法令（災害対策基本法、廃棄物処理法等）や関連計画、対策指針が改正された場合
- 災害廃棄物処理の教訓や課題、対策事例等の情報を収集し、改善点が見られた場合
- 教育・訓練を通じて、本計画の内容に改善点が見られた場合
- 災害廃棄物処理に関する市町村間の協定や事業者との協定等の内容及び実効性を確認し、見直しが必要と判断された場合
- その他本計画の見直しが必要と判断された場合

## 山武市災害廃棄物処理計画

発行年月 | 令和4（2022）年3月

発 行 者 | 千葉県山武市

〒289-1392 千葉県山武市殿台 296 番地

編 集 | 建設環境部環境保全課

TEL : 0475-80-1161